

ユニチカ
CSR レポート
2009

UNITIKA Group
Corporate Social Responsibility
Report 2009



UNITIKA
We Realize It!

目次



C O N T E N T S

マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● トップメッセージ 2 ● 編集方針 3 ● 会社概要 4 ● 経営理念 5 ● コーポレートガバナンス 5 ● 内部統制 6 ● CSR推進体制 7 ● 環境管理・安全衛生管理 7 ● コンプライアンス推進のために 8 ● 情報セキュリティ管理 8
社会性報告	<ul style="list-style-type: none"> お客さまとのかかわり 9 <ul style="list-style-type: none"> ● 安全な製品を提供するために 9 ● 品質保証活動 9 株主と投資家の皆様とのかかわり 10 <ul style="list-style-type: none"> ● IR活動の状況 10 ● 株式の状況 10 地域社会とのかかわり 11 <ul style="list-style-type: none"> ● 社会貢献に対する取り組み 11 ● 防災活動への取り組み 12 ● 広報活動への取り組み 13 ● コミュニケーションイベントレポート 14 従業員とのかかわり 16 <ul style="list-style-type: none"> ● 人事制度 16 ● 均等な機会の提供 16 ● 人材育成 17 ● メンタルヘルスの取り組み 17 ● 人権推進の取り組み 17 ● 安全衛生に対する取り組み 18 ● アスベスト関連の現状と対応 18
環境報告	<ul style="list-style-type: none"> 環境基本方針 19 環境中期計画 20 環境保全活動の経過 21 環境負荷の全体像 22 環境負荷低減への取り組み 23 <ul style="list-style-type: none"> ● 大気汚染防止への取り組み 23 ● 水質汚濁防止への取り組み 23 ● 廃棄物削減への取り組み 24 ● リサイクル率向上への取り組み 24 ● 化学物質に対する取り組み 25 ● 省エネルギーと地球温暖化防止への取り組み 26 ● 物流にかかわる環境負荷の低減への取り組み 27 ● 環境に関する苦情 27 環境会計 28 環境保護のための技術と製品 29 <ul style="list-style-type: none"> ● 水処理関連 29 ● ごみ処理関連 30 ● 大気汚染防止関連など 30 ● 植物由来のバイオマス素材/テラマック 31 ● 侵食防止シート/セグローバ 32 ● 再生ポリエステル繊維/ユニエコロ 33 ● 植物由来のバイオマス素材/キャストロン 33 ● 新天然繊維/シルフ 34 ● オーガニックコットン使用素材/ネイチャーコット 34 ● 再生ポリエステル不織布シート/エコミックス 35 ● ガラスビーズ/ロードマーキング用ユニビーズ 35 事業所情報 36

人々の生活と環境への貢献

——社会的存在感のある企業を目指して

ユニチカ株式会社
代表取締役社長

安江 健治



当社グループは、将来にわたり持続的に成長する企業を目指し、企業価値の維持・向上のための様々な活動に取り組んでおります。これらの基本は、事業の育成・強化や経営環境の変化に適応し得る事業体質を構築することにあります。一方でこれら事業に係る活動において企業の社会的責任という側面を強く意識し、ステークホルダーの皆様方との信頼関係の構築を図ることも企業価値の向上のためには必要不可欠であると認識しております。このような考え方にに基づき、当社グループは従来からCSRに関する取り組みを積極的に推進しております。

このCSR活動を推進するにあたっては、必要な機能である「環境対応」「コンプライアンス」「内部統制」「製品の安全管理」について、その定義、活動内容、仕組みづくり、運営体制などの整備を図ってきております。また2008年7月には、これら機能を統括し更なる強化を図るべく、新たに「CSR室」を設置、担当役員、専任担当者を選任し推進体制の充実を図っております。その中では、リスクマネジメントの機能も取り込み、様々なリスクに適切かつ迅速に対応できる仕組みを整備するなど、CSRの総合的な運営体制の構築を図っております。

当社グループのこれまでのCSR活動において中核的な位置づけとなるのは、「環境対応」に係る活動であります。21世紀は「環境の世紀」とも言われ、地球温暖化、環境汚染問題など地球環境に対する企業の社会的責任もますます重くなってきておりますが、当社グループにおきましても「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」という経営理念に基づき、グループ事業活動との接点を持たせながら、かねてより「環境」に係る様々な

取り組みを進めてまいりました。基本コンセプトとして「資源循環社会」の構築を念頭に置き、環境への負荷低減やリサイクルをテーマとしたゴミ処理・水処理における技術の展開、CO₂排出量低減へ貢献し得るポリ乳酸を原料としたバイオプラスチック「テラマック」の素材提供、環境保全のための大気、水質、土壌などの調査・分析から環境アセスメントなどがその一例であります。また、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証取得を当社グループ規模で推進し、本体6事業所並びに主要なグループ会社において認証を取得するとともに、主力工場のユーティリティについては、重油から天然ガスへの燃料転換を継続的に進めており、事業としての活動、事業運営上の活動の両面から環境重視の姿勢を具体化しております。

2009年4月より新たな中期経営三ヵ年計画「改革'11」がスタートしておりますが、その中におきましても、環境配慮型ビジネスとして、「テラマック」事業、環境資材事業、リサイクル関連事業の育成強化を図るなど、経営ビジョンに掲げる「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」を目指しております。今後は、これら取り組みを更に強化・推進し、従前から取り組んでおります「地球環境に配慮した企業活動」をベースとしながら、事業活動全般にわたって、CSRで掲げる具体的な目標の実現に向けた取り組みを一層推進してまいり所存であります。

本レポートが、社会の一員として当社グループが取り組んでいるCSR活動の状況について、ご理解の一助となることを願っております。

編集方針

●発行履歴

編集当初は「ユニチカ環境報告書」として、環境・社会活動についての報告をまとめてきました。その後企業の社会的責任(CSR)への注目度、重要度の高まりを受けて、2006年からその報告対象を拡大し、コーポレート・ガバナンスや内部統制などの理念や体制についての取り組みも合わせて毎年1回報告しています。

- 2002～2005 ユニチカ環境報告書
- 2006～ ユニチカCSRレポート

●報告対象期間

本報告書の対象期間は、2008年4月1日から2009年3月31日ですが、一部内容によっては2009年4月1日以降の報告もあります。

●参考にしたガイドライン

環境省の環境報告ガイドライン(2007年版)を参考にしました。

●本レポートの対象範囲

原則としてユニチカ株式会社の国内事業所及び海外を含むユニチカグループ会社を対象としています。
なお、環境報告の対象範囲は次のとおりです。

国内事業所

宇治事業所
岡崎事業所
坂越事業所
垂井事業所
豊橋事業所
常盤事業所
宮川事業所
貝塚事業所
中央研究所

事業所内グループ会社

(株)アドール
日本エステル(株)
ユーアイ電子(株)
ユニチカエヌピークロス(株)
(株)ユニチカ環境技術センター
ユニチカグラスファイバー(株)
ユニチカ設備技術(株)
ユニチカテキスタイル(株)
ユニチカファイバー(株)
ユニチカロジスティクス(株)

国内グループ会社

(株)アイテックス
大阪染工(株)
ダイアボンド工業(株)
寺田紡績(株)
(株)ユニオン
ユニチカスパークライト(株)
ユニチカスピニング(株)
ユニチカパークシャー(株)

●発行日

本報告書は2009年10月からユニチカ株式会社のホームページから閲覧できるようにしています。また、環境負荷を考慮して紙の冊子は発行していません。

●次回発行日

2010年10月予定

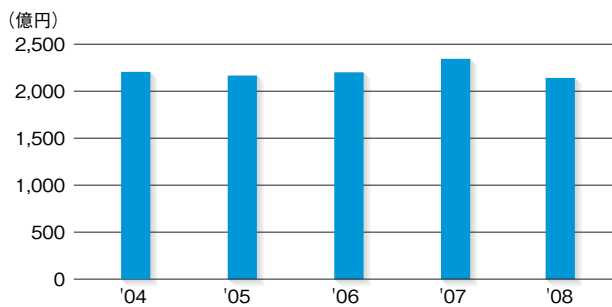
■CSRレポート中の用語について

- CSR：Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。
- ステークホルダー：顧客、株主、取引先、社会・地域、社員など企業に利害関係を持つ人や組織。
- コーポレートガバナンス：企業統治。
- コンプライアンス：法令や企業倫理の順守。

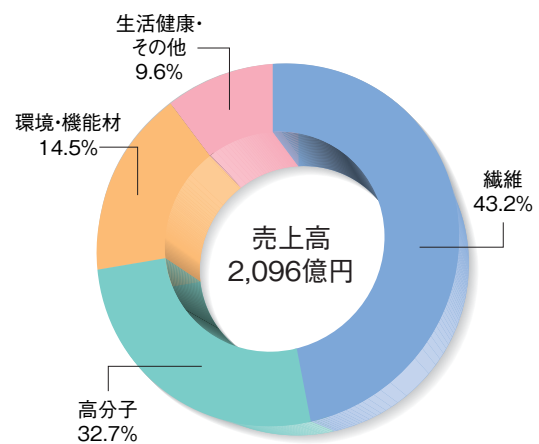
会社概要

- | | | | |
|----------|--------------------|-----------|--|
| ■会社名 | ユニチカ株式会社 | ■売上高(連結) | 2,096億円(2008年度) |
| ■創立 | 1889(明治22)年6月19日 | ■主要製品(連結) | 高分子事業(フィルム、樹脂、不織布)
環境・機能材事業(エンジニアリング、薬剤、機能材)
繊維事業(化合繊及び天然繊維の糸、綿、織編物)
生活健康・その他事業 |
| ■資本金 | 238億円(2009年3月末現在) | | |
| ■従業員(連結) | 5,437名(2009年3月末現在) | | |

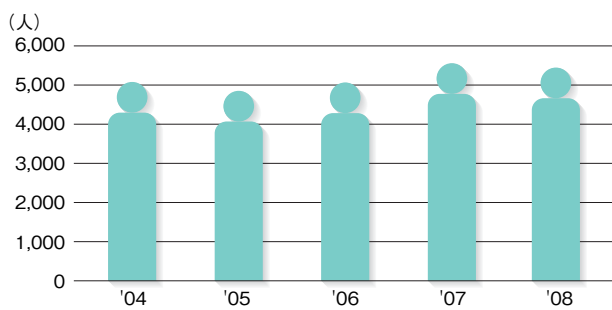
■売上高の推移(連結)



■事業別売上高構成比(2008年度連結)



■従業員(連結)





経営理念

「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」

当社グループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」ことを経営の理念とし、「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」を目指しています。

ユニチカグループスローガン

UNITIKA
We Realize It!

たくさんの人々がいます。人の数だけ夢や願いがあります。
 そのすべてに、ユニチカグループはひとつの想いで応えていこうと思います。
 ひとつの想い—それは人の暮らしの豊かさに貢献し、この地球環境と共に生きていくこと。
 私たちにはその想いを動かしていく、発想力があります。
 可能性という発想の芽を大きく育てる技術と活力があります。
 あるときは事業領域にかかわる各社が結束し、またあるときは多分野の能力を統合しフル稼働させる。
 私たちは、そうしたさまざまな動きを常に多元的に同時進行で展開させています。
 人々のまいにちから生まれる想いを実現する力—We Realize It!—
 私たちはユニチカグループです。

コーポレートガバナンス

「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業を目指す」
 この経営ビジョンのもと、ユニチカグループは、コーポレート・ガバナンスの
 継続的な取り組みを進めています。

●コーポレート・ガバナンスの基本方針

当社では、2006年4月からの中期経営3ヵ年計画において、事業戦略とともに、あらためてガバナンス戦略を掲げ、迅速な意思決定のもとで、コンプライアンスとリスクマネジメントの強化、適時適確な情報開示などによるステークホルダー重視の経営に取り組むものと致しました。当社は、このガバナンス戦略に掲げる経営姿勢を今後も継続していくことが、グローバルレベルで激変していく経済環境の中で、ユニチカグループの企業価値を高め、持続的な成長を可能にすると考えており、その後もコーポレート・ガバナンスの推進に向けた経営体制を適宜整えてまいりました。また、2009年4月から新たにスタートした新中期計画「改革'11」におきましても、このコーポレート・ガバナンスの考え方を念頭に置いた企業経営を推進するものとしており、本計画の中で、収益の改善はもとより、更なる企業価値の向上に努めてまいります。

●実施状況

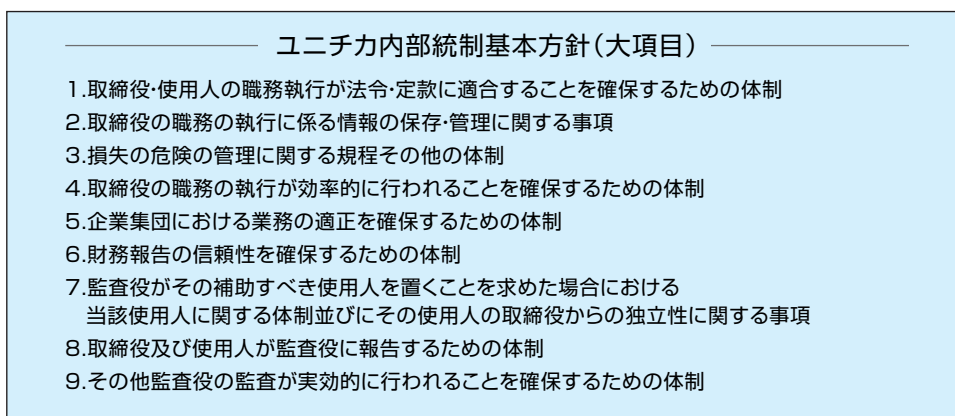
ユニチカは、2000年に経営意思決定・経営監督(ガバナンス)と、業務執行(マネジメント)を機能として分けて明確化する経営システムを導入しています。「取締役会」を前者に特化した機関とし、グループ経営全般にかかわる方針や諸課題について取締役が相互に討議を深める「経営推進会議」を設置。執行役員制度と社長の諮問機関「業務執行会議」により後者の意思決定迅速化と責任体制の明確化を図りました。
 2006年には、ユニチカ内部統制基本方針を定めたほか、人事総務部に「CSR・コンプライアンスグループ」を設置。さらに、取締役が執行役員を兼務するなどの経営体制の見直しを実施しました。
 2008年には、「CSR室」を設置し、コンプライアンスとリスクマネジメント体制を整備し、内部統制の推進に取り組んでいます。

内部統制

2007年4月から、内部統制推進室を設置し、財務報告に係る内部統制の構築を進めてきました。2008年7月にはCSR室を設置し、内部統制に関連した部署を統合し、内部統制の推進に取り組んでいます。

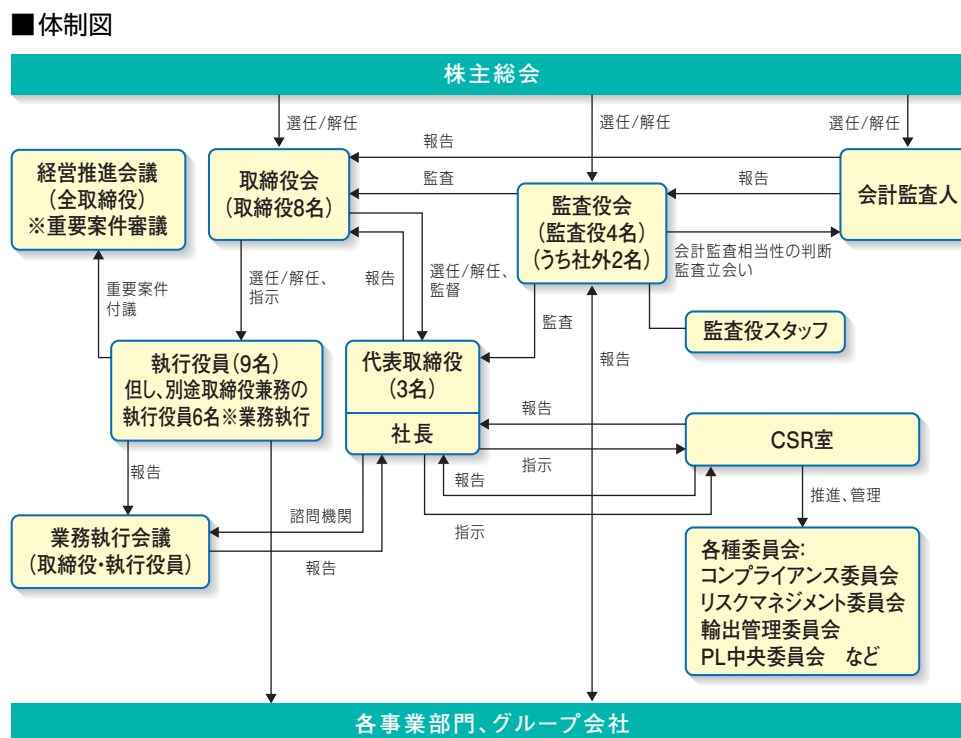
●基本方針

9項目からなる「ユニチカ内部統制基本方針」にのっとりします。



●体制

コーポレート・ガバナンス、公正な企業活動を推進するための体制を下図のように定めています。基本にあるのは、上記の「ユニチカ内部統制基本方針」です。この体制により、コンプライアンス、情報の保存・管理、リスク管理、取締役の職務執行効率化、業務の適正の確保といった内部統制を厳正に行っています。



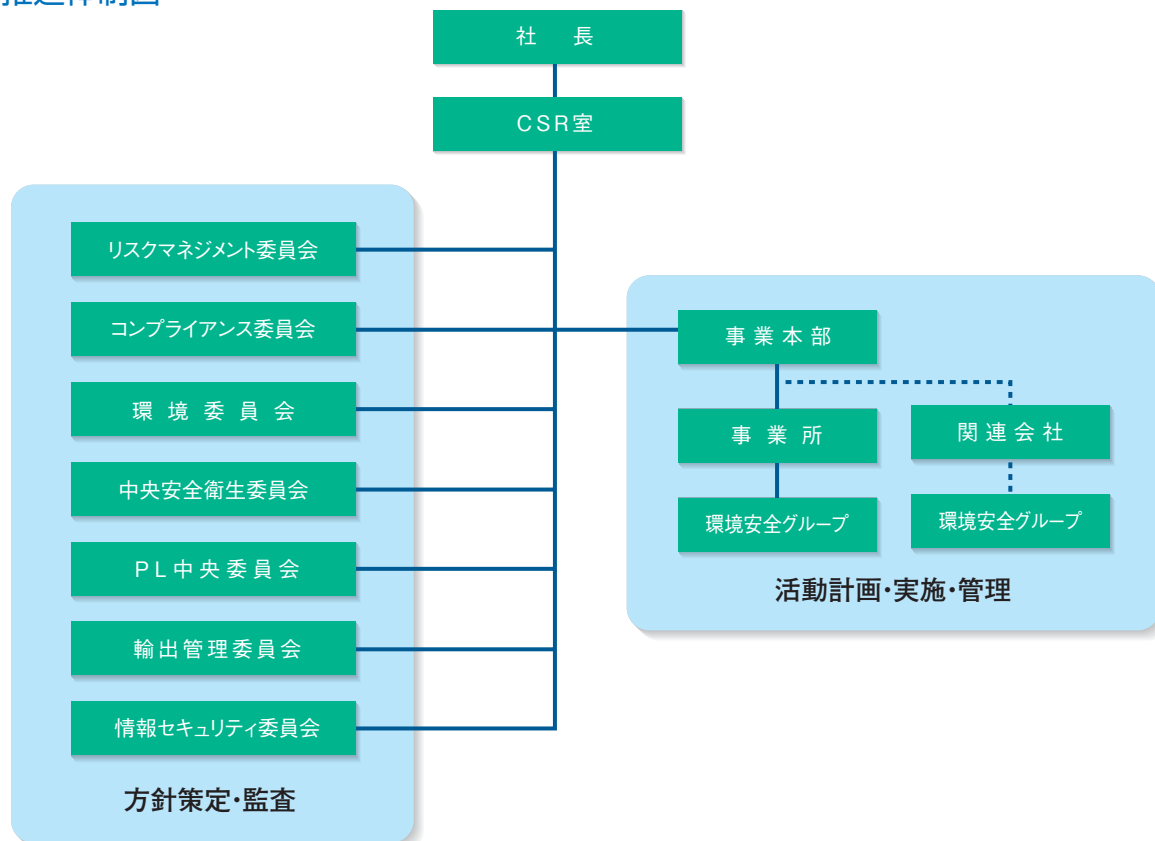
CSR推進体制

環境への配慮や安全対策をはじめコンプライアンスやリスクマネジメントなどCSR全体を推進するため、2008年からCSR全体を統括する組織としてCSR室およびCSR担当役員を新設しました。

CSR室を中心に各種委員会と事業本部からなる管理体制を確立し、CSR活動を推進しています。

CSR推進体制での重点活動は、①環境管理・安全衛生管理、②コンプライアンス推進、③情報セキュリティ管理、④製品安全性の確保などがあります。

●CSR推進体制図



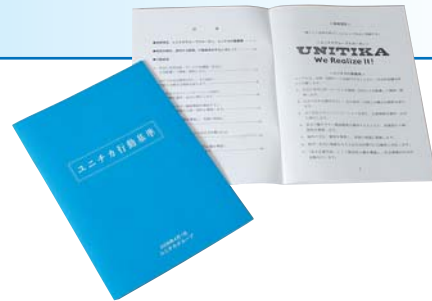
環境管理・安全衛生管理

ユニチカでは、環境委員会を年1回定期的に開催し、環境配慮型経営の基本計画、進捗状況の検証、その他環境に関する重要事項の審議決定を行っています。また、環境委員会では事務局による各事業所の環境監査を実施しており、その結果を環境委員会で報告しています。

安全・環境対策の専任部署として活動する中央安全衛生委員会及び環境委員会には、事業所、関連会社が組織する環境安全グループの上部組織として、実効力のある施策をリードできる体制を運営しています。

コンプライアンス推進のために

ユニチカでは、1998年に「ユニチカ行動憲章」を制定。さらに、具体的な行動などの基準を明記した「ユニチカ行動基準」を2008年4月に改定し、コンプライアンスを徹底しながら人々の暮らしと環境に貢献する企業として、ユニチカグループの従業員が活動できるよう、すべての従業員へ配布しました。



●ユニチカ行動憲章

ユニチカ行動憲章は、ユニチカが社会的使命を果たす基本的な方針です。ユニチカ及びグループ会社の全役員、社員に適用しています。

ユニチカは、法律、国際ルールを順守するとともに、社会的良識を持って行動します。

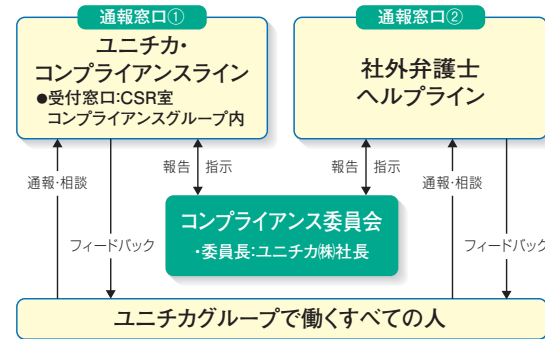
1. 社会に有用な財・サービスを環境・安全に十分配慮して開発・提供します。
2. 公正で自由な競争を行い、また政治・行政とは健全な関係を保ちます。
3. 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を適時・公正に開示します。
4. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の人格・個性を尊重します。
5. 海外の文化・慣習を尊重し、地域の発展に貢献します。
6. 秩序・安全に脅威を与える反社会的勢力には毅然と対応します。
7. 「良き企業市民」として基本的人権を尊重し、社会貢献のための活動を行います。

●内部通報窓口の設置

ユニチカでは、2006年に「公益通報（内部通報）取扱規程」を施行し、従業員が不正・違法行為に気づいたらすぐに通報できるよう、社内、社外の2つのルートを設定した通報窓口も整備しました。コンプライアンス委員会を中心に、社内のコンプライアンスの徹底を図っています。

また、イントラネットなどを利用したコンプライアンス順守のための啓蒙活動の一環として、内部通報窓口の認知度向上のための情報を随時、従業員に発信しています。2007年度には、グループ全体に周知を徹底し、より多くの従業員が利用できるようになりました。

■ユニチカの内部通報窓口



情報セキュリティ管理

インターネットの普及などで、情報へのアクセスが容易になる中、ますます重要となった情報の管理とセキュリティ確保に取り組んでいます。

●情報セキュリティ

情報資産の機密性保持、不正利用の防止を目的として、ユニチカは2005年に「情報セキュリティ基本方針」を定めました。「情報セキュリティ宣言」を掲げ、その力強い推進を表明するとともに、情報セキュリティ委員会を中心とした管理・運用体制を確立。事業活動における情報の保護とその有効利用を図っています。

ユニチカ 情報セキュリティ宣言(前文略)

1. 情報セキュリティポリシーを基に情報セキュリティ対策を実施します。
2. 情報セキュリティ管理体制を構築し組織的に取り組みます。
3. 役員ならびに全従業員に対し情報セキュリティポリシーの啓蒙と教育を実施し、情報セキュリティ事故の防止に努めます。
4. 継続的に情報セキュリティの改善に努めます。
5. 個人情報保護法をはじめとして関連するすべての法令その他の規範を遵守します。

*情報セキュリティポリシーとは、「情報セキュリティ宣言」「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ対策標準」「情報セキュリティ実施手順」により策定・管理される文書。



社会性報告

お客さまとのかわり

PL・品質保証を通して製品安全の向上や品質向上を図り、お客さまのご満足を第一に製品づくりに努めています。

安全な製品を提供するために

ユニチカは、お客様に安全な製品をお届けするために、製品安全管理規程を制定しています。基本方針から責任の所在、推進体制、マニュアルの運用や適用の細則までを詳細に定めています。ユニチカ及びグループ会社は、この規程にのっ

って安全な製品の製造、販売に努めています。製品の安全を図るために設置されたPL中央委員会を中心とする推進体制については下に図解します。



●2008年度製品安全に関する結果

PL(製造物責任)に関する事故はありませんでした。

※事故につながるおそれのあるようなクレームについても、PL中央委員会で情報を共有化し、日々、再発防止の対策をすすめるなど改善活動を行っています。

品質保証活動

お客さまにご満足いただける商品を提供するため、ユニチカグループでは品質マネジメントシステムの認証取得をすすめています。ISO9001を基本とした総合的な品質マネジメントシステ

ムを確立し、継続的な改善を図ることによって品質保証活動を展開しています。



社会性報告

株主と投資家の皆様とのかかわり

当社は、「ステークホルダー重視の経営」の観点から、株主・投資家の皆様に対して多様な機会を通じて、適時適確な情報開示に努めております。
これら活動を円滑に行うために、2003年1月にIR部門を新たに設置し、従来の広報部門との連携の下にIR広報グループとして活動を展開し、株主・投資家の皆様との対話の充実を図っております。

IR活動の状況

- 定時株主総会

最新の業況のご説明、株主の皆様との対話を通じて、当社の経営状況と方針などについての理解を深めていただけるよう努めております。
- 決算発表及び説明会

年2回、第2四半期決算と通期決算発表日には新聞記者の皆様を対象にした決算報告を、また同発表日の約1週間後に、機関投資家及びアナリストの皆様を対象とした決算説明会を、それぞれ実施しております。
- 機関投資家訪問

機関投資家、アナリストの皆様へ訪問し、個別の取材対応を行っています。
- 各種発刊物

・決算短信(年4回 四半期ごと 5月、8月、11月、2月発行)
・株主通信(年2回 第2四半期、通期決算後)
・会社案内
- ホームページ整備

当社ホームページ「株主・投資家の皆様へ」において、各種開示情報を記載しております。

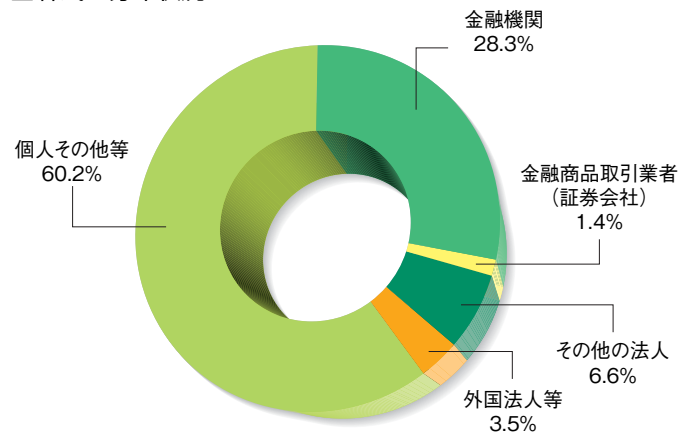


平成20年3月期決算説明会
(経団連会館 5月)

株式の状況(平成21年3月31日現在)

- 発行済株式の総数 475,969,000株
- 株主数 68,557名
- 単元株主数 57,965名

株式の分布状況





社会性報告

地域社会とのかかわり

美化運動やボランティア、地域と連携した防災活動、あるいは様々な情報発信を通じて、環境保護やエコ社会の発展を地域のみなさまとともに目指しています。

社会貢献に対する取り組み

「京都議定書」採択の地として環境施政を展開している京都府が、その一環として、環境配慮活動の実践により地球環境保全や循環型地域社会づくりに率先して取り組んでいる事業所等を認定・登録する制度が「エコ京都21(京都・環境を守り育てる事業所等)」です。この活動に、ユニチカの宇治事業所は当初から参画し、2004年12月に、創意あふれる環境配慮活動を推進している事業所・団体を対象とする、エコスタイル部門の認定・登録を受けています。



●地域の美化運動への参加

宇治事業所では、周辺地域を美化するボランティア活動を積極的に行っています。

地域美化清掃活動である「クリーン宇治」運動に参加して、事業所周辺の清掃活動を年に3回実施しています。



宇治「クリーン宇治」



その他の各事業所も、社会貢献活動として事業所周辺の環境美化に努めています。

岡崎事業所では、2008年3月の土曜日の1日、地域ボランティア活動として約150人が参加し、工場周辺地域の清掃を行いました。



岡崎「事業所周辺地域の清掃」

●企業の森活動に参加

一方ユニチカユニオンでは、社会的なボランティアに対する意識の高まりを受け、1992年にはボランティア基金を設立し、国内外での活動をスタートしています。国内では身障者施設などでの支援活動や、ボランティア裾野を広げるための研修会、海外においては、国際交流ワークキャンプへの派遣、災害支援に対するカンパ活動など、より一層ボランティア活動が活性化するように取り組んでいます。

2003年には組合結成30周年を迎えたことから、社会貢献、環境意識高揚を目的に「緑のプラン」をスタートさせ、『ユニチカの森』が誕生しました。和歌山県日高川町の山林2haにクヌギ、コナラ、ヒノキを植林し、年数回現地を訪れ、従業員による下草刈りや枝打ち等を行っています。2008年9月には、33名が参加して木の生育を良くするため、周辺の下草刈りと枝打ちを行ないました。また、和歌山県より「森林による二酸化炭素の吸収等環境保全活動」に認証され、100年間で約800tの二酸化炭素の吸収が見込まれています。



防災活動への取り組み

ユニチカは、生産事故や周辺被害事故を起こさない体制づくりはもちろん、事故や自然災害に備えた訓練活動にも積極的に取り組んでいます。生産施設の安全管理を徹底する社内基準として「新設備等の安全衛生および環境に関する事前評価指針」を制定しています。この基準に照らし、設備の新設・改造などを行う場合は、設計時と完成検査時の計2度にわたり厳正な審査を行い、災害防止に努めています。

また、ボイラーや圧力容器を用いる事業所には、毎年の法定点検義務が課せられていますが、適正な自主管理体制や一定の要件が所轄労働基準監督署により認められると、法定検査が2年に1回へ延長可能となります。ユニチカでは2事業所(宇

治・岡崎)が認定を受けています。

宇治事業所では、春の火災予防運動期間中の2009年3月5日に、フィルム製造部を対象に宇治市中消防署と連携して合同消防訓練を総勢100名の参加者を得て実施しました。水消火器による初期消火訓練、起震車での地震体験や煙中ハウスでの体験を行い災害への備えの訓練を無事行いました。

岡崎事業所では、東海地震予防強化地域の指定に伴い、毎年11月に事業所防火の日を設けて訓練を実施しています。2008年11月19日に、事業所全体での情報伝達・避難・設備点検報告訓練と各課にて設定した被害状況に応じた、初期消火・漏えい防止訓練を実施しました。



合同消防訓練(宇治事業所)



漏えい防止訓練(岡崎事業所)



起震車での地震体験(宇治事業所)



水消火器訓練(宇治事業所)

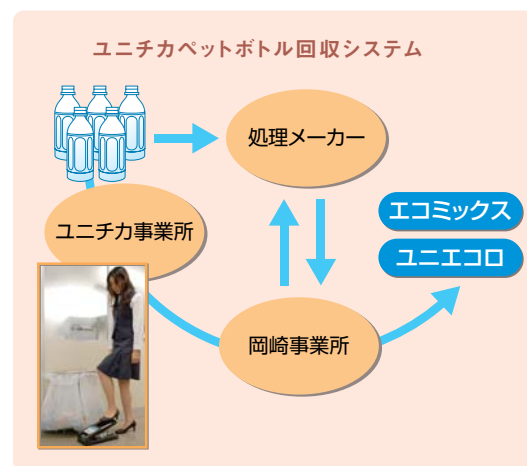


初期消火訓練(岡崎事業所)

TOPICS

ペットボトル回収運動について

ユニチカでは、リサイクル商品(エコマーク取得)として、再生ポリエステル繊維「ユニエコロ」や再生ポリエステル不織布シート「エコミックス」を製造販売しています。地球環境保全に対する取り組みのひとつとして需要は拡大傾向にあり、重要な製品に育っています。その原料となる使用済みのペットボトルの回収運動を社内で実施しています。各事業所の従業員やその家族が協力して使用済みペットボトルを洗浄後分別回収します。それを岡崎事業所に集めて、処理メーカーでフレーク化するものです。宇治、岡崎、大阪から回収運動がスタートし、現在ではユニチカファイバー本社、豊橋、坂越、常盤、垂井へと広がり、従業員の参加意識も高まっています。





広報活動への取り組み

トウモロコシなど植物由来のポリマーからなるバイオマス素材「テラマック」。ユニチカでは、「テラマック」の普及・啓蒙及び企業CSR活動の一環として、2007年に引き続き「びっくり!エコ100選2008」(タカシマヤ京都店・タカシマヤ新宿店で開催)に参加しました。展示ブースでは、テラマックを使用したお椀、お箸、ボディタオルなどを展示。

また、豆に見立てたテラマック樹脂をお箸でつかんで時間内にどれだけ多く集められるかを競う競技「びっくり!エコリンピック」には、多くの子どもたちが参加し楽しんでいました。その他、昨年同様に骨・把手部分にテラマックを使った「お絵かきうちわ」を提供しました。



テラマック製商品群

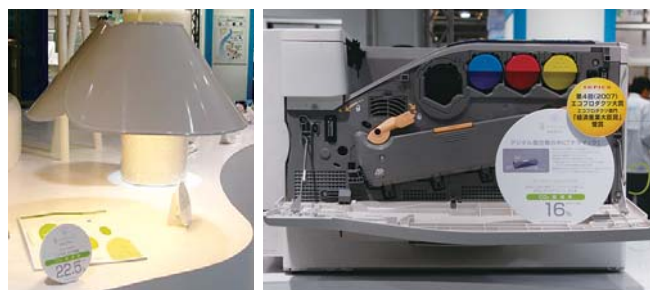


「エコリンピック」競技風景

TOPICS

ユニチカグループとして「エコプロダクツ2008」に出展

エコプロダクツの普及と環境型社会の実現をめざし開催されてきた「エコプロダクツ展」は、昨年10周年を迎えました。12月11日～13日ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2008」は、3日間で約174,000人が訪れ、出展者数、来場者数ともに過去最大となりました。3年連続出展となるユニチカグループの今年のテーマは、『ユニチカエコラボ-想う、つくる、変える-』。「地球環境と人の暮らしを想う、求められているモノを求められる方法でつくる、そして暮らしを、未来の地球を変える」のコンセプトのもと、地球環境に対するさまざまな取り組みを紹介しました。植物由来のバイオマス素材「テラマック」をはじめ、「キャストロン(ナイロン11繊維)」などのエコロジー繊維、ガスコージェネレーション自家発電設備の導入、水・ごみ処理関係、リサイクル樹脂など、多岐に渡るユニチカグループの取り組みをアピールしました。



ユニチカフィットネスクラブ宇治で催された
コミュニケーションイベントをレポート

● Communication Event Report

マスコットガールの
ハツラツとした笑顔に、
地域の元気がアップ!

ユニチカマスコットガール忽那 汐里(くつなしおり)さんが
京都府宇治市でのイベントに参加。
全国から集まったアマチュアカメラマンとの撮影会や
フィットネスクラブの会員の皆さんとの交流を楽しみました。



マスコットガールの忽那 汐里さんを迎え
ビューティーフォトコンテスト開催!

紅葉真っただ中の京都府宇治市。2008年11月23
日に、ユニチカグループの基幹事業所であるユニチカ
宇治事業所隣接のユニチカフィットネスクラブ宇治に
て、ユニチカマスコットガール忽那汐里さんを迎え、第8



回デイリービューティーフォトコンテスト(デイリースポーツ社主催)が行われました。



忽那汐里さんはオーストラリアで生まれ育ったことから、京都には初めての訪問となりました。全国各地から集まったアマチュアカメラマン約70名の熱気があふれる中、テレビドラマやCMで活躍する忽那汐里さんをモデルに撮影会がスタート。8回目を迎えたこのイベントには歴代ユニチカマスコットガールが参加してきましたが、ユニチカフィットネスクラブ宇治の開設を記念し、初めてのユニチカ関連施設でのイベントとなりました。



● Communication Event Report

真新しい施設の1階ロビーでの撮影から始まり、緊張もほぐれたころ、汐里さんはフィットネスウェアに着替えて今度はジムでの撮影。楽しそうにバランスボールに乗ったり、機械を使って運動したりと、汐里スマイルにカメラマン達は魅了されていました。カメラマンから「さおりちゃん、こっち向いてー。」の掛け声に、「しおりです(怒)!!」としっかりツッコミながらも楽しい撮影会となりました。



フィットネスクラブでトレーニングの後
スイミング教室の子供たちと大盛り上がり

午後からは、フィットネスクラブ会員の皆さんとの交流イベントを開催。ユニチカ宇治事業所地域から集まった住民の皆さんも、ユニチカマスコットガールとの交流イベントを楽しみにしておられたようです。当日は施設の休館日でしたが、多くの方に来館していただきました。



トレーニングマシンを円形に配置し、14名1チームとなってトレーニングを行う“イージーライン”では、会員の皆さんに混じって汐里さんも参加。「フルセットやります!」と30分間ノンストップで汗を流しました。プールに移動後は、プールプログラムに参加している皆さんをプールサイドでコーチと共にコーチングしながら声援を送りました。最後は、スイミング教室に通う子供たち200名とのゲームで大盛り上がり。サイン入りのカレンダーを勝ち取った子供たちはとても嬉しそうにしていました。

ハイタッチで子供たちとお別れをして長い一日を終えた汐里さんは、「これほど多くの皆さんと1日楽しめたことで感激しました」と交流への手応えに疲れも忘れ、笑顔で宇治を後にしたのでした。





社会性報告

従業員とのかかわり

社員の自己実現を支援する人事制度を運用しています。また、雇用や職務の機会均等を図るとともに、安全・衛生に配慮した快適で働きやすい職場環境づくりに努めています。

人事制度

● 評価制度

ユニチカの人事評価制度は、社員の「やる気」を大切に、組織の活力を高めていくことを目的としています。成果を出した人や困難な課題にチャレンジしている人が、より報われる「成果主義的人事評価制度」を取り入れています。具体的には、年2回の目標管理制度と年1回のコンピテンシー評価制度により、目標に対する達成度を公正に評価し、能力開発目標を明確にして、人材育成に直結させています。

評価結果については、上司との面談を通じて社員一人ひとりへ、確実にフィードバックを図り、評価の透明性、納得性を高めています。

● 自己申告制度(キャリアプラン)

毎年1回人事評価制度と同時に「キャリアプランシート」という名称の適性・配置自己申告シートを提出することとしています。このシートの内容は(1)現職に対する考え。(2)中長期的な視点での自己キャリアプラン。(3)キャリアに関する当面の希望(移動希望の有無など)。(4)自分の強みやキャリアプラン実現に向けての取り組み。(5)配置に関する特記事項(配慮事項など)や職場における改善提案などがあり、「能力開発目標」や「期待役割」について明確にするツールとしても活用しています。更に、一定年齢以上の者には再雇用制度の希望の有無についても確認しています。

またユニチカでは、優秀な人材育成の観点から、ジョブローテーションが重要と認識しており、複数の部署を経験することによる能力向上を図るとともに、早期抜擢等の目的で若手を中心に適宜ローテーションを実施しています。

均等な機会の提供

● 女性の活躍

ユニチカでは、女性の能力や感性を評価し、採用や昇進・昇格等で差をつけず、女性の積極的活用に取り組んでいます。ここ5年の女性採用比率は22.4%で、女性管理職も活躍しています。

● ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

ユニチカでは、職業生活と家庭生活の両立や高齢化問題に対応するため、育児休職や介護休職のできる環境を整備しており、具体的には法定を上回る育児休職、介護休職の期間や子ども看護休暇を導入しています。さらに、「次世代育成支援対策推進法」に基づき、男性の育児参加促進にも取り組みを進めており、女性社員だけでなく、男性社員も育児休職を取得しています。

(人)

	育児休職者数	介護休職者数
2004年度	27	1
2005年度	17	0
2006年度	27	3
2007年度	26	0
2008年度	18	4

● 再雇用制度

ユニチカでは、60歳を超えても同じ仕事を続けることができるよう、「エルダー社員制度」を設け、意欲がある人を積極的に再雇用しています。2008年度の再雇用率は61.1%です。



人財育成

高いレベルの業績目標を達成するためには、組織を構成する社員一人ひとりの能力を高めることが必要と、ユニチカは考えています。そこで、処遇や評価などの人事諸制度と能力開発や研修体系などの能力育成制度の両面から『人財育成』を強力に推進しています。

この考えに立ち、ユニチカ独自の研修施設として「ユニチカ研修センター」を設立。各種研修会を開催し多くの社員が受講し

ています。

一方、自己啓発支援として、資格取得援助制度、通信教育、国内大学への留学制度などがあり、チャレンジ精神の高い社員が意欲的に利用しています。

※ユニチカでは、「人(=社員)は会社の“財産”」との考えから、人材ではなく「人財」と表現しています。

研修体系(プログラム)と受講者数(2008年度)

1 階層別研修(647名受講)

- ①昇格者研修(233名)
- ②若手社員教育(414名)
新入社員研修、基礎知識取得講座、
製造部門リーダー養成講座

2 専門教育(123名受講)

- ①コンピテンシー強化研修
法務研修
- ②OJD教育
責任者研修、
リーダー研修
- ③品質管理研修



メンタルヘルスの取り組み

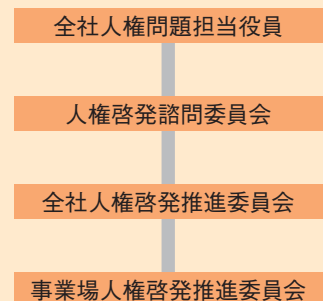
厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づいて、積極的に取り組んでいます。管理職登用時には、対象者全員にメンタルヘルス研修を行い、管理職としての役割認識や管理職自身の「心の健康づくり」を促しています。

また、ユニチカ健康保険組合が契約している外部EAP会社(従業員支援プログラム)のサービス「ハロー健康相談24」が利用でき、社内・社外に健康相談窓口を設けて、気軽に相談できるようにしています。

人権推進の取り組み

ユニチカでは、人権啓発にグループを挙げて取り組んでいます。従業員に配布しているユニチカ行動基準に人権尊重について明記するとともに、全役員、全従業員に1年に1度は人権啓発研修を実施し、組織も整備し、運営しています。さらに、大阪同和・人権問題企業連絡会会員として、人権啓発情報の収集等幅広く人権問題に取り組んでいます。男女雇用機会均等法施行に伴いセクシャルハラスメントやパワーハラスメントについても、各事業場に相談窓口を設置し、社員の意識・認識を高めています。また、ユニチカでは、国内外の子会社でも強制労働および児童労働は行っていません。

人権啓発推進委員会 組織図



安全衛生に対する取り組み

従業員に対する安全衛生確保は事業活動の大前提であり、企業の社会的責任(CSR)の面からも、非常に重要になってきています。ユニチカは、すべての従業員の労働災害の防止

と快適職場の形成、そして健康管理にグループを挙げて取り組んでいます。

ユニチカ安全衛生基本方針

1. 安全衛生の確保は、あらゆる事業活動の基本である。
2. 安全衛生の確保は、経営者およびライン各層の最も重要な責務である。
3. 安全衛生確保のため、社員全員参加で活動する。
4. 安全衛生確保のため、労働安全衛生法令および事業場安全衛生規定を遵守する。
5. 安全衛生確保のため、継続的に安全衛生マネジメントシステムを運用する。

ユニチカでは、社員の安全意識高揚のための安全衛生に関する中期計画(3カ年)を策定し、その計画にそった活動を1969年より続けています。1974年からは役員とユニチカの全事業所の所長や安全衛生スタッフが参加して毎年安全衛生大会を開催しています。

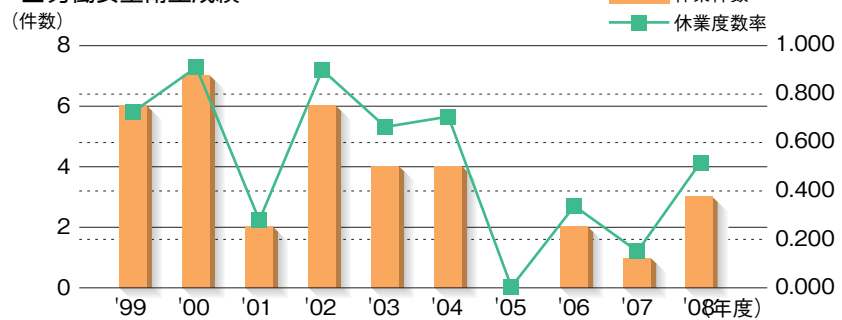
2008年から始まった新しい中期計画(第14次プログラム'08~'10年)では、「災害ゼロ」を究極の目標としていますが、企業内には様々な種類の安全に係るリスクが存在し、かつ、頻繁に変化している事から、「労働安全衛生マネジメントシ

テムに関する指針」に基づき、安全衛生活動のスパイラルアップとリスクアセスメントを継続推進することによって潜在的危険性の撲滅「危険ゼロ」を目指しています。

また、厚生労働省から出されている「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」に基づき、メンタルヘルスケアの積極的な推進を図るとともに、メタボリックシンドロームに着目した「特定健康診断・特定保健指導」による生活習慣病予防対策の充実に努めています。



■労働安全衛生成績



ユニチカの2008年度の休業度数率は0.515で、残念ながら前年に比べ悪化しました。今後さらに安全衛生活動の充実を図ることで、災害ゼロの継続に向けた努力を続けていきます。

アスベスト関連の現状と対応

ユニチカ及びグループ各社は、過去・現在ともアスベストの製造や加工は行っておりません。しかしながら、1975年当時に機械設備の保温材として、一部にアスベストを使用していたことがあり、社会のアスベストへの関心の高まりを受けて、2005年にグループ横断的な機能として「石綿関連対策会議」を設置して、アスベストに係る対応についての検討、方針決定等を行うこととしました。

これまで安全対策として、各事業所及びグループ会社におけるアスベスト使用の設備や建物等の調査を行い、アスベスト含有材が露出あるいは飛散の恐れがある箇所については、既に除去、封じ込め、あるいは囲い込み等の適切な処置を完了し

ております。

また、健康状況の確認のため、過去にアスベストを取り扱う作業に従事していた従業員及び退職者で石綿健康診断を希望する人について健康診断を実施しました。2009年3月現在で把握している従業員及び退職者の健康被害は以下のとおりです。事業所やグループ各社周辺の住民の方からの健康被害のご相談はありません。

労働災害認定者……………5名(4名)
石綿による健康被害救済法認定者……………3名(3名)
()内は死亡者

環境基本方針

ユニチカは、1993年を環境元年とし、宣誓、基本理念、行動指針からなる「ユニチカ地球環境憲章」を制定しました。以後この憲章にのっとり、環境に配慮した企業経営を行うとともに、様々な環境活動に取り組んでいます。

●ユニチカ地球環境憲章

私たち人類の活動範囲が広がり、活発となるに伴って、空気、水、土などの自然環境が地球的規模で急激に変化し、地球という限られた生態系の中で、私たちと共に生きている動植物のみならず、私たちの存亡さえ危惧される事態に立ち至っている。ユニチカは、一世紀余りにわたる事業活動を通じて社会に貢献してきたが、このような地球環境の厳しい現状を深く認識し、地球環境の保護、改善に一層の配慮をし、適切な方策を講じることが企業活動の根幹であることを宣明する。

●基本理念

暮らしと技術を結び、人と自然との共生に貢献する企業活動を行う。

●行動指針

1	地球環境を常に配慮する	企業活動を行うに当たっては、地球環境に与える影響を常に配慮する。特に製品の製造に当たっては、地球環境に悪影響を与えないように厳格な管理をする。
2	技術開発で貢献する	地球環境の保護、改善に貢献する技術の研究開発を積極的に推進する。
3	資源・エネルギーを効率的に利用する	資源・エネルギーの効率的な利用を促進するとともに、限られた資源のリサイクルに努める。
4	広報、啓発活動を推進する	地球環境の保護、改善に関する情報について積極的な広報活動を行うとともに広く啓発活動を推進する。
5	ユニチカグループの総合力を発揮する	ユニチカグループは、この憲章にのっとり総合力を発揮して、地球環境の保護、改善の実現に努める。

環境中期計画

ユニチカグループは、環境中期計画を策定して、産業廃棄物の削減と資源・エネルギーの効率的利用を重点目標とし、計画的な改善に取り組んできました。

2006年度からは、2005年度までの第3次中期計画における達成状況を精査、分析し、2008年度を目標達成年度とする第4次環境中期計画を策定し、推進してきました。

その結果、2008年度は、エネルギーの燃料転換など諸施策によりエネルギー使用量の削減は進みましたが、エネルギー原単位としましては、2008年後半からの景気悪化により生

産量が低下し2008年度は改善に至りませんでした。

また、産業廃棄物の削減は、廃棄物の削減や有価物売却を推進し、国内事業所および事業所内グループ会社にて約18%となり達成となりました。リサイクル率の向上につきましては、景気悪化による生産量減の影響なども受け当初の目標よりは効果が小さくなりました。

次期(第5次)環境中期目標からは、国内グループ会社を含めた新たな対象範囲として、2007年度の結果を基準にして中期目標を策定しております。

●第4次(2006年度～2008年度)環境中期計画の結果

重点課題	目 標	結 果 (2008年度実績)	第5次環境中期目標
1 産業廃棄物量の削減	2004年度基準 16%削減 (注)	達成	2007年度基準 4%削減 (注)
2 生産工程内ロスの リサイクル率の向上	2004年度基準 7%上昇 (注)	未達	2007年度基準 2%上昇 (注)
3 エネルギー原単位の改善	前年度比 1%削減	未達	最終年度 前年度比1%削減
4 エネルギー使用量の削減	1990年度比 2010年度10%削減	達成(暫定)	1990年度比 2010年度10%削減

(注)第4次環境中期計画対象範囲:国内事業所及び事業所内グループ会社

第5次環境中期計画対象範囲:国内事業所、事業所内グループ会社、および国内グループ会社



環境保全活動の経過

30年以上にわたって連綿と進化し、さらに未来へと続いていく環境経営を進めます。

ユニチカは、我が国が公害問題で揺れていた1973年に「環境保全規程」を定め、規制値や基準値が守られればよとする、他律的な生産活動とは一線を画しました。

1991年には全社組織として環境保全委員会を新たに設け、1993年の「ユニチカ地球環境憲章」制定、年1回の環境監査開始と、現在まで続く環境配慮型経営の基本路線を確立。1998年には、ユニチカグループとして社会的使命を果たすための基本的な行動方針を定めた「ユニチカ行動憲章」を制定し、その第一条において環境・安全への配慮責任を明記しています。

この行動憲章を受け、日頃の事業活動において守るべき具体的な組織・従業員の行動基準を定めたのが、2001年4月に制定・施行した「ユニチカ行動基準」です。環境・安全から、コンプライアンスや、社会、ステークホルダーとの共生意識へと広がる、企業の社会的責任(CSR)の考え方に立った企業活動へと明確な一歩を印しました。

●環境保全活動の歩み

1973. 09	環境保全規程を制定・施行
1991. 10	環境保全規程を改正、環境保全委員会設置
1993. 04	地球環境憲章を制定・施行
1993. 05	環境保全規程を改正し、環境規程として制定・施行／環境委員会を設置し、毎年開催
1994. 05	環境監査を開始(年1回) (事業所自主監査と、本社スタッフによる社内監査)
1996. 07	環境中期計画第1次(1997～1999年度)目標策定
1996. 09	社内啓発誌“かんきょう”を発行開始
1997. 10	主要事業所でISO14001の認証取得に向けて活動開始
1998. 01	ユニチカ行動憲章制定・施行
1999. 01	ユニチカケミカル(株)がISO14001取得(グループ第1号)
2000. 10	環境中期計画第2次(2000～2002年度)目標策定
2001. 04	ユニチカ行動基準作成
2002. 10	ユニチカ環境報告書発行
2002. 10	環境中期計画第3次(2003～2005年度)目標策定
2005. 10	環境中期計画第4次(2006～2008年度)目標策定
2008. 10	環境中期計画第5次(2009～2011年度)目標策定

ユニチカは、環境に配慮した企業活動の国際的な基準となっている、ISO14001の認証取得にも積極的に取り組んでいます。現在は、関係会社の認証取得を支援する活動を開始し、各社の環境監査を行っています。

●ISO14001 認証取得状況

1999. 04	(株)アドール
1999. 11	ユニチカ坂越事業所
2000. 10	ユーアイ電子(株)
2001. 01	ユニチカテキスタイル(株)常盤工場
2001. 03	ユニチカ宇治工場
2001. 03	ユニチカ宇治プラスチック工場
2001. 03	ユニチカ中央研究所
2001. 03	ユニチカファイバー(株)宇治工場
2001. 03	ユニチカガラスファイバー(株)京都工場
2001. 03	(株)ユニチカ環境技術センター近畿事業所
2001. 10	ユニチカ岡崎工場
2001. 10	ユニチカファイバー(株)岡崎工場
2001. 10	ユニチカ設備技術(株)中部事業所第2事業本部
2001. 10	日本エステル(株)岡崎工場
2001. 10	(株)ユニチカ環境技術センター中部事業所
2001. 12	ユニチカ垂井事業所
2001. 12	ユニチカ設備技術(株)垂井グループ
2003. 12	ユニチカガラスファイバー(株)垂井工場
2004. 02	ダイアボンド工業(株)
2004. 09	寺田紡績(株)
2008. 06	(株)ユニオン

TOPICS

環境格付け融資に対する評価

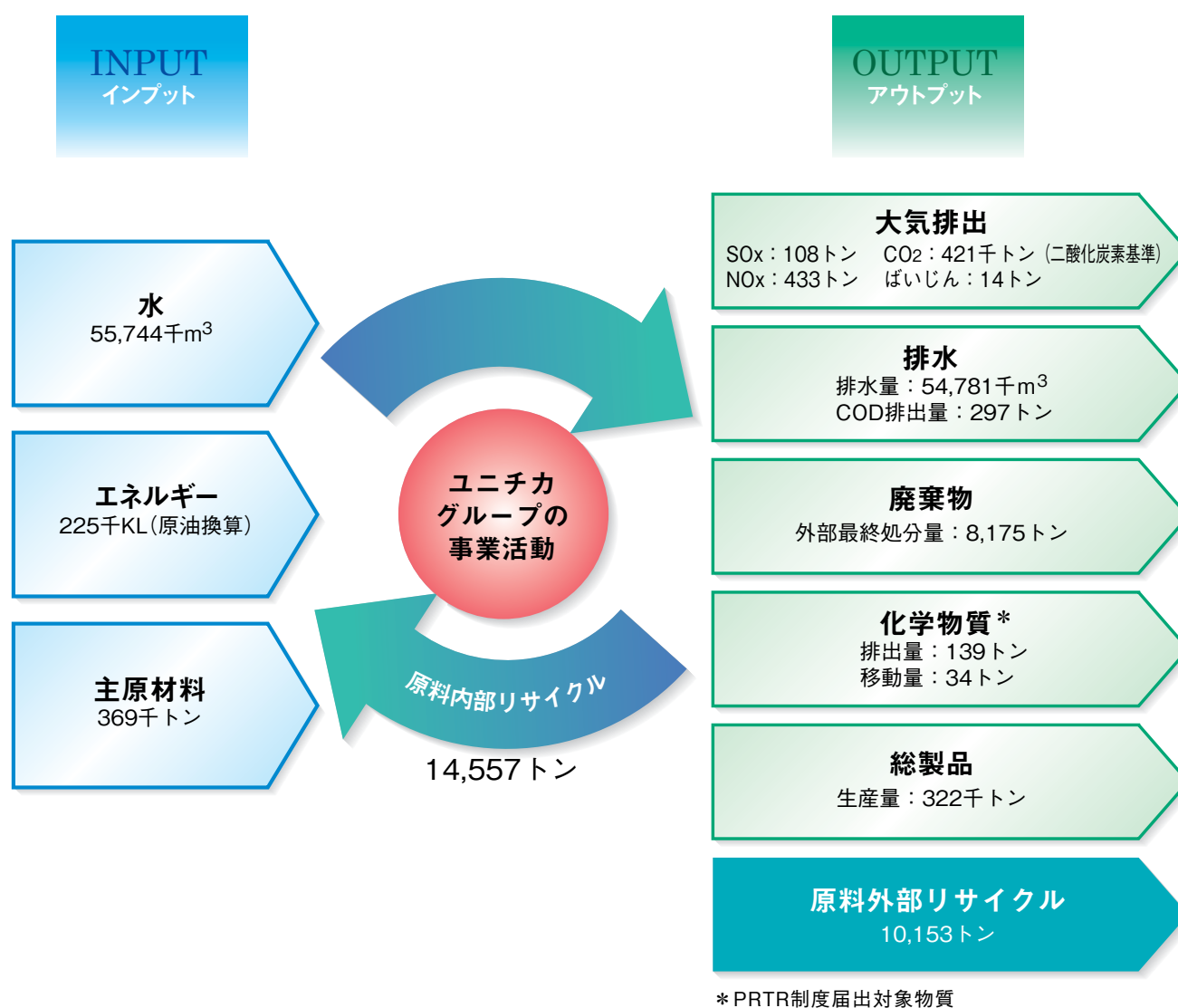
ユニチカは、「環境への配慮に対する取組みが特に先進的」という総合評価を受け、2007年度に日本政策投資銀行様から環境格付け融資を受けました。これは、二酸化炭素(CO₂)の増減に影響を与えないカーボンニュートラルな素材として注目されるポリ乳酸(テラマック)の展開が、民生部門の低炭素社会への転換に先導的な役割を果たしたことに加えてエネルギー由来のCO₂の排出量の劇的な削減が評価されたものです。経営全般、事業関連、パフォーマンスを含む環境スクリーニングの結果、3段階評価の中で最高格付けを受けました。



環境負荷の全体像

●事業活動における環境負荷(2008年度実績)

ユニチカグループは、その事業活動において様々な環境負荷を与えていることを認識しています。その実態を正確に把握し、環境負荷の低減に努めています。2008年度におけるユニチカグループのマテリアルフローは、下図のとおりとなりました。



環境報告



環境負荷低減への取り組み

大気と水をできるかぎり汚さない。そして、地球温暖化を進行させない。

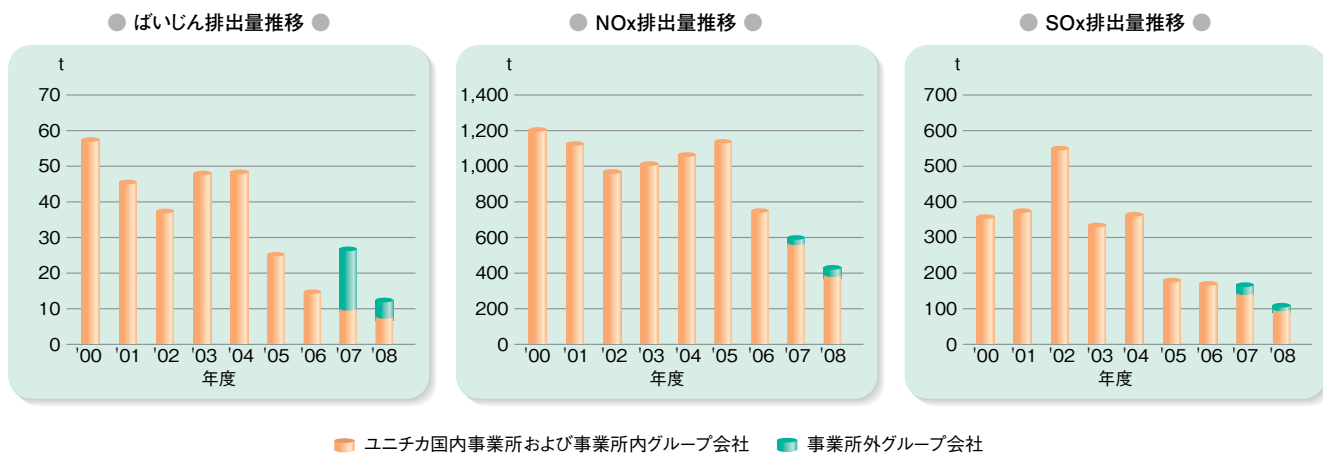
ユニチカは、今製造業に求められている地球環境保全の観点から、環境対策を積極的に推進しています。

大気汚染防止への取り組み

ユニチカグループにおきましては、大気汚染の防止のため、大気への負荷物質の排出量の低減に取り組んでおります。国内の各生産拠点において、重油から液化天然ガスへのエネルギー転換、ディーゼル発電の停止等の施策を推し進めております。

その結果、2008年度には、ばいじん、NOx(窒素酸化物)、SOx(硫黄酸化物)の排出量をさらに低減しました。

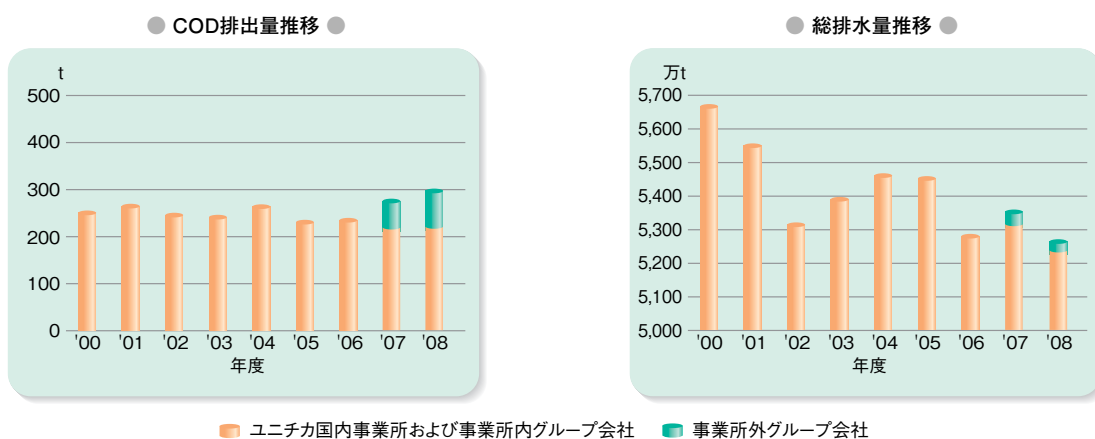
今後も適切に運転管理を行い、排出量の低減に努めてまいります。



水質汚濁防止への取り組み

2008年度のCOD排出量は、ユニチカグループで297トンと前年度比9%増となっています。また、総排水量は54,781千

トンと前年度比3%減でした。利用した水資源は適切に処理し、水質を管理した上で河川域、海域、下水に返しています。

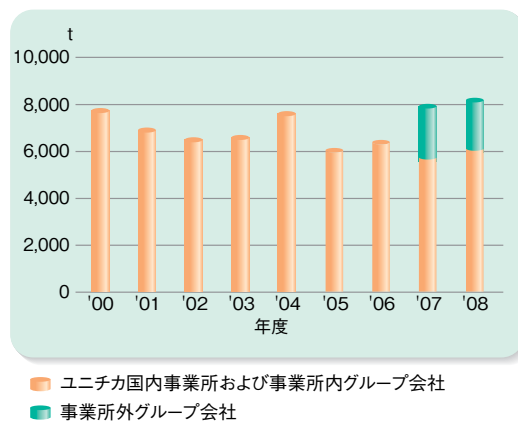


廃棄物削減への取り組み

廃棄物の発生の低減、廃棄物の有価物として売却処理などの施策を推進することにより産業廃棄物の削減に取り組んでおります。
一部の事業所でのサーマルリサイクルの低下などが影響し、

2008年度の産業廃棄物の処分量は8,176トンと前年度比3%と微増に転じました。今後とも、廃棄物の発生の低減と有価物処理を推進し、産業廃棄物の削減に取り組んでまいります。

● 産業廃棄物処理量推移 ●

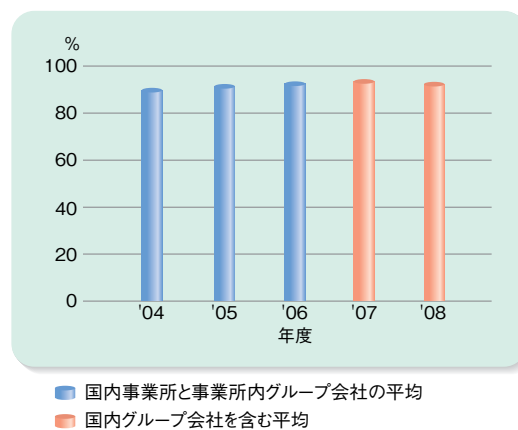


リサイクル率向上への取り組み

原料の再使用、有価物としての売却処理、単純焼却処理の削減などによりリサイクル率の向上に取り組んでおります。
2008年度はグループ会社8社を含めた平均で92.2%と前

年度比1%低下しました。これは、主にサーマルリサイクル低下等に起因しております。

● リサイクル率の推移 ●



化学物質に対する取り組み

ユニチカグループでは、労働安全衛生法および環境基本法に関する法令等で定められた化学物質並びに人の健康に影響することが現在疑われている化学物質を定量的に管理する指針を定め、各事業所で化学物質の管理を実行しています。PRTR(化学物質排出移動量届出)制度は、化学物質排出把握管理促進法(化管法)に基づいて、人の健康や生態系に

有害性を及ぼすおそれがある指定の化学物質について、環境中への排出量と廃棄物としての移動量を報告し、国が公表する制度です。2008年度ユニチカグループでは、対象となる23物質について、環境への排出量および移動量を報告しました。

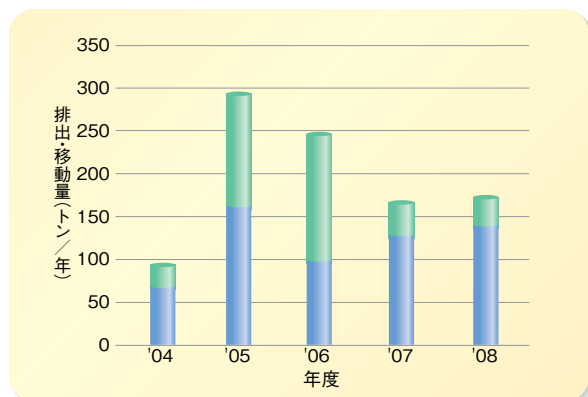
PRTR制度届出対象物質:23物質

- アセトアルデヒド
- ε-カプロラクタム
- トルエン
- アンチモン及びその化合物
- キシレン
- ヘキサメチレンジアミン
- 石綿
- コバルト及びその化合物
- 1,2,4-ベンゼントリカルボル酸1,2-無水物
- ビスフェノールA
- 1,4-ジオキサン
- ホウ素及びその化合物
- ビスフェノールA型エポキシ樹脂
- ジクロロペンタフルオロプロパン
- ポリ(オキシエチレン)アルキルエーテル
- エチルベンゼン
- ジクロロメタン(塩化メチレン)
- ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル
- エチレンオキシド
- N,N-ジメチルホルムアミド
- メタクリル酸メチル
- エチレングリコール
- テレフタル酸

● 2008年度PRTR制度届出対象物質の排出量と移動量 ● (トン/年)

物質名称	大 気	水 域	排出量合計	移動量
アセトアルデヒド	5	2	7	—
石綿	—	—	—	2
ビスフェノールA	—	0	0	5
ε-カプロラクタム	15	0	15	—
ジクロロペンタフルオロプロパン(HCFC-225)	1	—	1	—
ジクロロメタン	86	0	86	9
テレフタル酸	—	—	—	1
トルエン	17	—	17	15
ホウ素及びその化合物	—	10	10	0
ポリ(オキシエチレン)アルキルエーテル	—	3	3	0
その他	1	0	1	2
ユニチカ国内事業所 および 事業所内グループ会社 合計	107	12	119	17
ユニチカ事業所外グループ会社 合計	18	3	21	17

● PRTR制度対象物質の排出量・移動量 ●



2008年度は、2007年度対比で排出量は微増し、移動量は同程度となりました。移動量につきましては、2006年度より有機溶媒を回収し再利用するシステムが本格的に稼働したことにより削減することができております。今後も自主削減目標をたて、プロセスの改善、また運転の適正化を図りながら、環境負荷を維持あるいは低減するよう努めます。

省エネルギーと地球温暖化防止への取り組み

ユニチカグループでは、温室効果ガス、具体的にはエネルギーを起源としたCO₂排出量の削減に向けて、さまざまな省エネ活動を実施し、エネルギー使用量の削減とエネルギー原単位の改善に取り組んでいます。

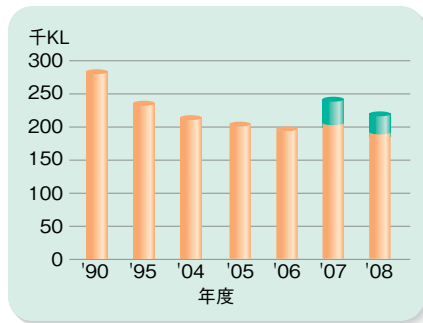
エネルギー原単位につきまして、宇治事業所、岡崎事業所につづき坂越事業所で重油から天然ガスへのエネルギー転換を行ったこと、垂井事業所、豊橋事業所でディーゼル発電を停止し買電に切り替えたことなどの施策により部分的に改善（低下）の方向に進みましたが、トータルで見ますと生産量の

低下などが影響し、エネルギー原単位は前年度比1ポイント悪化（上昇）しました。

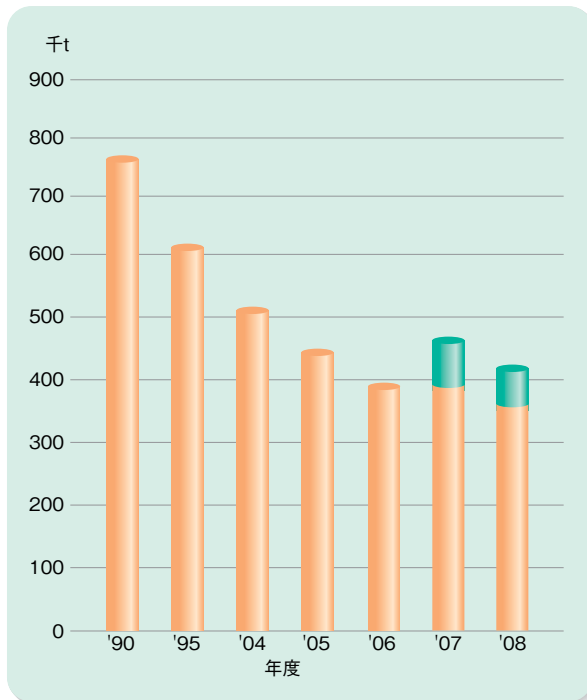
エネルギー使用量、CO₂排出量につきましては、2008年度は2007年度対比で低下しました。生産量の低下の影響もありますが、重油から天然ガスへのエネルギーやディーゼル発電の停止、また、地道な省エネ活動の効果が現れていると考えられています。

ユニチカは今後も、製造全体の様々な指標を見渡す視点に立った、トータル的な地球温暖化防止対策をさらに推進していく所存です。

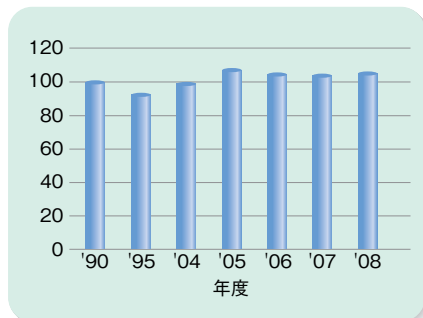
● エネルギー使用量推移（原油換算）●



● エネルギー起源CO₂排出量推移（二酸化炭素基準）●



● エネルギー原単位推移（1990年度を100とした指数）●



■ 国内事業所と事業所内グループ会社
(ユーアイ電子(株)、ユニチカエスピークロス(株)を除く)

■ ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社
■ 事業所外グループ会社

(注) エネルギー原単位 = エネルギー使用量(原油換算)(千KL) / 生産高(千t)

物流にかかわる環境負荷の低減への取り組み

原材料などの搬入や、製品・廃棄物などの搬出に伴う輸送の環境負荷低減について、ユニチカは下記4項目からなる努力指針を掲げて取り組んでいます。輸送効率のトータルの向上、使用エネルギーの削減、排出ガスの低減などがさらに進みました。

- 1 品質が同等の汎用製品(原料)については、他社と融通(スワップ)しあうことにより輸送距離を短縮します。
- 2 国内輸送においては大量輸送が可能で、エネルギー効率の高い海上コンテナ輸送及び鉄道輸送を優先的に利用します。
- 3 構内作業で使用するフォークリフトはエンジン式から排出ガスゼロ、低騒音という環境に配慮したバッテリー式への変更を進めます。
- 4 梱包材料は紙袋からフレキシブルコンテナへと大型化します。さらにコンテナ形状も工夫してトラックへの積載効率を向上させるなど輸送時のエネルギー削減に努めます。

2006年4月からエネルギーの使用の合理化に関する法律改正に伴い、物流分野の省エネルギーへの取り組みを開始しました。ユニチカ及びユニチカグループが特定荷主として届け出た2008年度の、貨物総輸送量は95,586千トンkmとなり、輸送に係るCO₂の排出量は33千トン(二酸化炭素基準)となりました。

環境に関する苦情

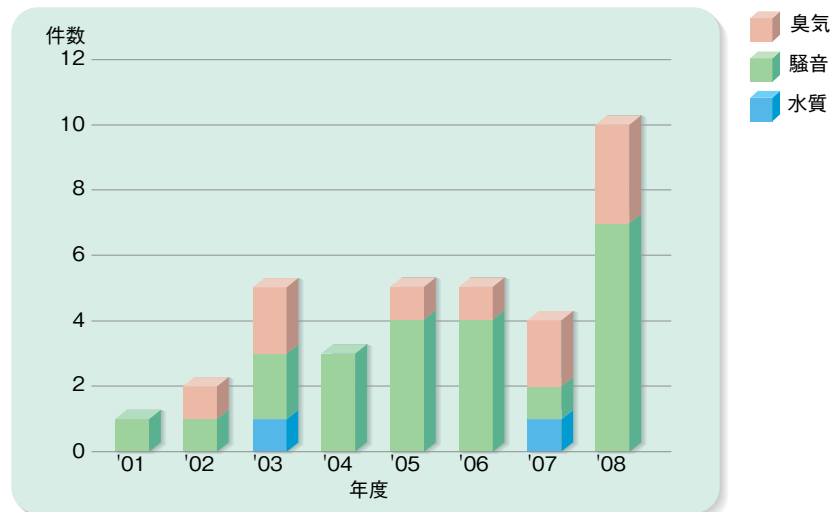
ユニチカグループでは、「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業を目指す」との経営ビジョンのもと、地域住民の皆様の生活に配慮した事業活動を展開しております。しかしながら、2008年度も騒音や臭気などの苦情を頂戴しました。それぞれの苦情に対し、その原因と実施した対策の効果について地域住民の皆様に確認し、コミュニケーションを図りながら再発防止に努めております。

今後も地域住民の皆様の快適な生活環境に貢献できるよう改善に努めてまいります。

なお、ユニチカ及びユニチカグループにおきましては、2008年度に環境問題を引き起こす可能性のある事故・汚染はありませんでした。

また、環境関連法令違反の事実もありませんでした。

● 近隣からの苦情件数 ●



※'01~'08年度において大気に関する苦情はありませんでした。

環境会計

ユニチカグループは、環境に配慮した事業活動の一環として環境会計に取り組んでいます。

会計の算定にあたっては、2005年2月に環境省から公表された環境会計ガイドライン2005年版を参考にしています。ユニチカは、今後もより正確でわかりやすい環境会計の公開を続けていきます。

●環境会計の目的

- 環境保全に関する投資額や費用額の定量的把握、環境保全への取り組みの一層の合理的な意思決定
- 環境会計情報のステークホルダーへの開示と説明責任の履行

●環境会計の集計方法

集計範囲:ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社、(株)ユニオン

対象期間:2008年4月1日～2009年3月31日(2008年度)

集計方法:投資額には環境を主目的としていない案件の環境投資分を含みます。
また、費用額には労務費、経費、減価償却費を含みます。

ユニチカの2008年度環境投資額は441百万円でした。環境負荷の低減、化学物質や原料の回収リサイクルに関するものが主な投資対象となっています。

また、環境に関わる費用は2,833百万円でした。主な費目は公害防止設備の維持管理と廃棄物の処理(リサイクル費用を含む)、および環境負荷低減のための製品研究開発などです。

●環境保全コスト

(単位:百万円)

区分	設備投資額	費用	備考
事業エリア内コスト	公害防止コスト	249	公害(水質・大気・騒音)防止対策
	地球環境保全コスト	—	省エネルギー、地球温暖化防止
	資源循環コスト	189	廃棄物処分、リサイクル
上・下流コスト	—	146	梱包材リサイクル
管理活動コスト	3	82	環境マネジメントシステム維持、環境教育、負荷監視
研究開発コスト	—	320	環境配慮型製品の開発
社会活動コスト	—	40	緑化改善、美化運動
環境損傷対応コスト	—	23	SOx負荷量賦課金
合計	441	2,833	

●経済効果

(単位:百万円)

算定根拠が明確で、実質的な対環境保全効果の高い項目について計上しました。なお、推定的効果は算定していません。

項目	金額
省エネルギーによる費用の削減	48
省資源および廃棄物削減に伴う費用の削減	28
リサイクルによる有価物の売却益	163

環境報告

環境保全のための技術と製品

ユニチカは、資源循環型のサステナブル社会実現を支援するという基本的な考え方に立ち、様々な製品や技術を提供しています。

水処理関連

- 上水道施設
- 上水高度処理施設
- 下水高度処理施設
- 農業集落排水処理施設
- 最終処分場浸出水処理施設
- 産業排水処理設備
- 汚泥減量化設備
- 上水膜ろ過設備
- 下水道施設
- 造粒脱リン設備
- 漁業集落排水処理施設
- ごみ焼却場排水処理施設
- 生活排水処理設備
- 汚泥コンポスト化設備

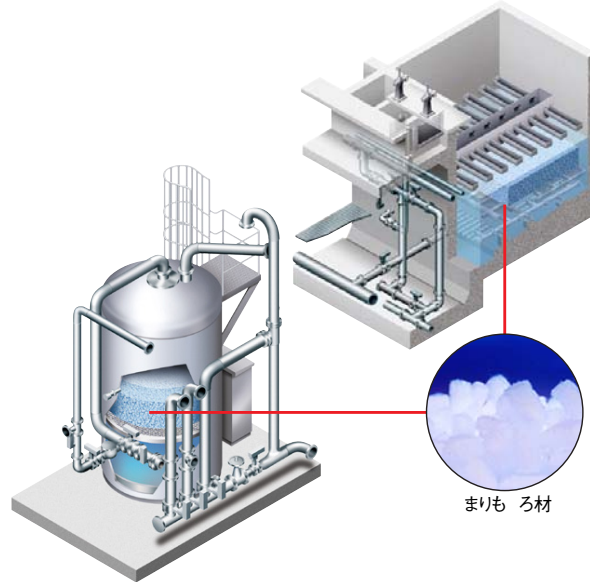
●合流式下水道改善処理システム

雨天時になると下水処理場には短時間に多量の合流下水が流れ込み、処理が追いつかず、未処理のまま河川などに放流されてきました。そこでユニチカでは高速ろ過装置「まりも」をベースに、短時間に高速かつ安定した処理が可能な、「合流式下水道改善処理システム」を開発。効率のよい上下向流可変式高速ろ過を行い、雨天時にも晴天時にも高い処理能力を発揮します。雨天時には汚濁成分を最大2,000m/dのろ過速度で除去。晴天時には標準で1,000m/dのろ過速度を実現。高性能で安定した処理能力を、低コストで実現したシステムです。



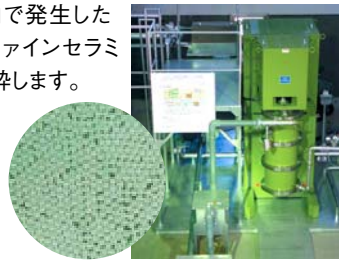
●高速ろ過装置「まりも」

ユニチカは、特殊繊維体をろ材にした高性能の高速ろ過装置「まりも」を開発しました。従来の砂ろ過に比べると、ろ過速度が5倍という高速機能を有します。処理効率も一段と優れ、簡単に洗浄できるタイプのろ過装置で、長年繊維を扱ってきたユニチカならではの商品です。排水三次処理、排水再利用、工業用水ろ過、造水の前処理にと、幅広く利用されています。



●汚泥減量化設備

人の暮らしと地球の未来のために持続可能な社会を目指し、そのために、生物処理から発生する汚泥を減らす設備を開発しました。生物処理槽内で発生した余剰汚泥を連続的にファインセラミックスのビーズでミル破碎します。破碎により可溶化した汚泥を再び生物処理槽へ戻し、生物分解します。



ファインセラミックスビーズ

●造粒脱リン装置「フォスニックス」

排水中のリンをリン酸マグネシウムアンモニウムの粒状体(MAP)として回収する装置です。MAPは肥料として有効利用できます。



MAP

●生物接触ろ過施設

ポリエステル繊維製球状担体をろ材として用いた浄水施設です。ろ材の表面に生物膜が形成され、ろ層内で硝化菌や鉄酸化細菌等が増殖し、これらの生物浄化機能により、アンモニア性窒素や鉄・マンガンを効率よく除去できます。施設面積が少なくすみ、浄水処理能力が高い施設です。



北郡山浄水場

ごみ処理関連

- ストーカ式焼却施設
- 流動床式焼却施設
- ガス化溶融施設
- 容器包装リサイクル施設
- 焼却残渣溶融施設
- ごみ破砕選別施設
- ごみ固形燃料化施設
- 排ガス処理設備
- 飛灰処理設備
- 蓄熱式脱臭設備

● 次世代型ストーカ式焼却炉 「ユニバーンシステム21」

ユニチカは、昭和46年から都市ごみ焼却施設建設事業に参入し、90施設に及ぶ実績をかさねてきました。「ユニバーンシステム21」はこの経験と、ドイツから導入したボイラ付きストーカ式焼却炉をベースとして開発した、次世代型都市ごみ焼却システムです。低空気比、高温燃焼による、熱回収率の向上及び排ガスの高度クリーン化を実現。これにより環境負荷の低減と、ごみ処理トータルコストの低減が可能になりました。



八街市クリーンセンター

● 高機能型焼却残渣溶融システム 「ユニメルトシステム21」

焼却残渣の減容化・無害化の研究に取り組み、「ユニメルトシステム」を開発しました。焼却灰や飛灰の他に、粗大ごみを処理した後の不燃残渣や可燃残渣も混合して溶融処理できるシステムです。今まで再利用できなかった廃プラスチックと一緒に溶融処理することで、プラスチックの熱エネルギーを有効に活用。そして溶融後に冷却することでスラグ化し、そのスラグは建設資材などに有効活用できるという画期的なシステムです。さらに埋立処分場の処理物を溶融処理することも可能。埋立処分場の再生を実現するシステムとも言えます。



鳥取県西部広域行政管理組合エコスラグセンター

大気汚染防止関連など

- 脱臭設備
- 集塵装置
- 土壌調査・分析
- 土壌汚染浄化対策
- 各種汚染浄化対策
- 薬剤・樹脂・ろ材

● 環境調査・測定分析 株式会社ユニチカ環境技術センター

ユニチカ環境技術センターでは、最新の設備と技術力を基盤に、環境調査、測定分析をはじめ、各種産業に必要な様々な調査を行っています。ダイオキシン類の分析では、環境省が実施するダイオキシン類の受注資格審査認定を受け、高い信頼を得ています。ダイオキシンの分析をより正確に行うための極微量分析ができる体制も整備。また、最近注目されている土壌の調査においても多くの実績があり、土壌・地下水汚染の恒久対策を行っています。その他、シックハウス調査、大気質・気象・騒音・振動測定、水処理に関する技術支援、排ガス・悪臭・作業環境測定、河川水・排水・飲料水・アスベスト・絶縁油中微量PCBの分析など、生活環境を守るためのお手伝いをしています。



環境ホルモン分析



簡易ボーリングマシンによる試料採取作業

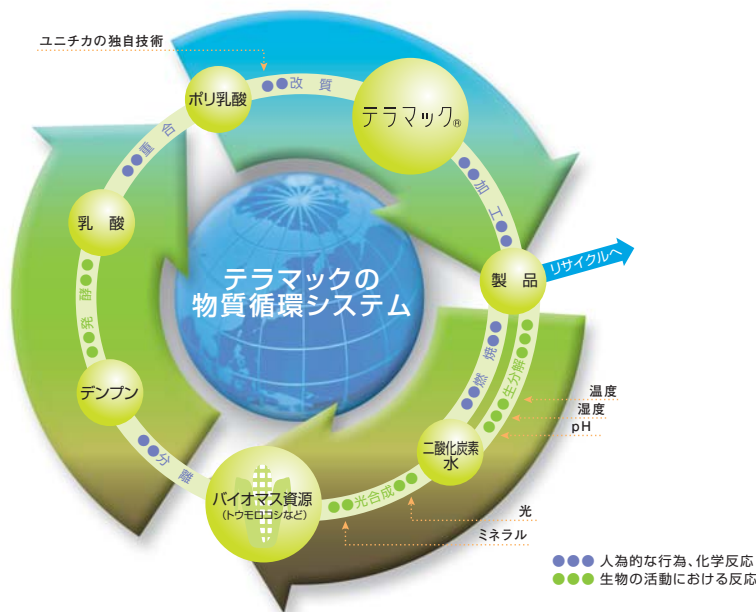
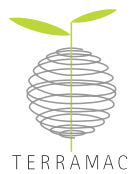


植物由来のバイオマス素材

●テラマック

「テラマック」は、トウモロコシなどの植物由来のポリマーからなるバイオマス素材です。バイオマスとは、化石資源を除く、再生可能な生物由来の有機性資源を指します。「テラマック」は最終的には二酸化炭素と水に分解し、これがトウモロコシなどの植物に吸収されて、ふたたび「テラマック」になります。つまり、自然界が本来そなえている「リサイクルシステム」に組み込まれているものです。一方、従来のプラスチック製品は有限で再生不可能な石油が原料です。そして、このまま使い続ければ、そう遠くない将来にはなくなります。そこで今、「テラマック」に大きな期待が寄せられています。「テラマック」の用途は多岐にわたり、洋服、食器、カップ、包装フィルム、化粧ボトル、ティーバッグ、プリンター、ゴミ袋、電子機器部品

など、生活の全般をカバーしつつあります。なかでも、熱湯注入や電子レンジでの加熱にも耐える発泡容器・食品容器は、「テラマック」のベースであるポリ乳酸由来の製品として、世界ではじめてユニチカが開発しました。また、耐久性や耐熱性の点で厳しいスペックが要求される携帯電話の筐体や、難燃性も要求されるデジタル複合機のパーツにも採用されています。最近ではアロイ技術により成形加工性や耐衝撃性を向上させた耐熱グレードの射出成形用樹脂を開発し、ヘルスメーターの本体外装などに採用されています。植物の恵みと人の技術から生まれた「テラマック」。地球と人に選ばれる理想の素材を目指しています。



テラマックは人体と環境への安全性にも優れています。

生分解性	JIS K6953 (ISO14855) 「制御されたコンポスト条件の好気的かつ究極的な生分解度及び崩壊度試験」合格
識別標示 認証基準	日本バイオプラスチック協会 (JBPA) のグリーンプラ識別標示制度・認証基準適合 (ポジティブリスト掲載、グリーンプラ認証マーク取得)
食品衛生性	食品衛生法「厚生省告示第370号」規格規準適合 米国FDA/FCN (Food Contact Notification) No.178認定
抗菌性	ポリ乳酸には抗菌活性があることが報告されています。 (「防菌防黴」, vol.29, No.3, pp.153-159, 2001)
低燃焼熱	燃焼熱は約19kJ/gと低く、石油系プラスチックの1/2~1/3で、焼却炉を傷めません。 焼却時に有毒ガス(ダイオキシン、塩化水素、NOx、SOx)を発生しません。

こんな用途にお使いいただけます。



Ingeo™のトレードマークがついたテラマック製品はNatureWorks Bland Policyに適合しており、NatureWorks®バイオポリマーを使用しています。NatureWorks、Ingeo、Ingeoロゴは、米国及びその他の国々におけるNatureWorks LLCの登録商標です。
www.natureworkslc.com



侵食防止シート

●セグローバ

ユニチカファイバーは、平成9年6月に一部改正された河川法に基づき、自然環境や景観を配慮した侵食防止シート「セグローバ」を開発。一定の空隙と厚みが保持されるよう3D製編技術を駆使し、シートが水流に抵抗して、耐侵食性を高めることに成功しました。また、耐候性などの耐久性を考慮して、主に黒原着のポリエステルモノフィラメントを充て、一部に寸法安定性を付与させるため、芯鞘構造を持つバインダー繊維を応用。さらに、シートの表裏層は土砂充填性を考慮し、ハニカム構造としました。こうして生まれた「セグローバ」を護岸工事として応用することにより、芝や芽など草木植物の耐侵食力を補強することが可能。堤防法面や河岸の流水による侵食をくい止める、新たな侵食防止シート工法が実現できる素材といえます。「セグローバ」はすでに、(財)土木研究センター発行の

「侵食防止シートの性能評価証明書第0001号」を業界に先駆けて取得しています。

SEGUROVA®



TOPICS

「TOKYO FIBER'09 ミラノ展」出展 『生分解性苔プランター』

2009年4月21日～27日、イタリア・ミラノ市トリエンナーレ美術館にて「TOKYO FIBER'09 ミラノ展」が開催されました。当社では植物由来のポリマーからなるバイオマス素材「テラマック」で、侵食防止シート「セグローバ」を作成。環境に配慮した新しいプランターを提案しました。展示会場の真ん中に、『生分解性苔プランター』と題した苔の庭を制作(作家:東 信(あずま まこと)フラワーアーティスト)。防水シートの上にテラマック(セグローバ)を敷き、それに苔やゼンマイを植え、さらに芝の種を蒔いた作品で、最終日には芝の芽は5cmほどにも成長しました。エコロジー素材としての人気が高く、カーボンニュートラル+自由に変形出来る市場に無いプランターとして注目されました。

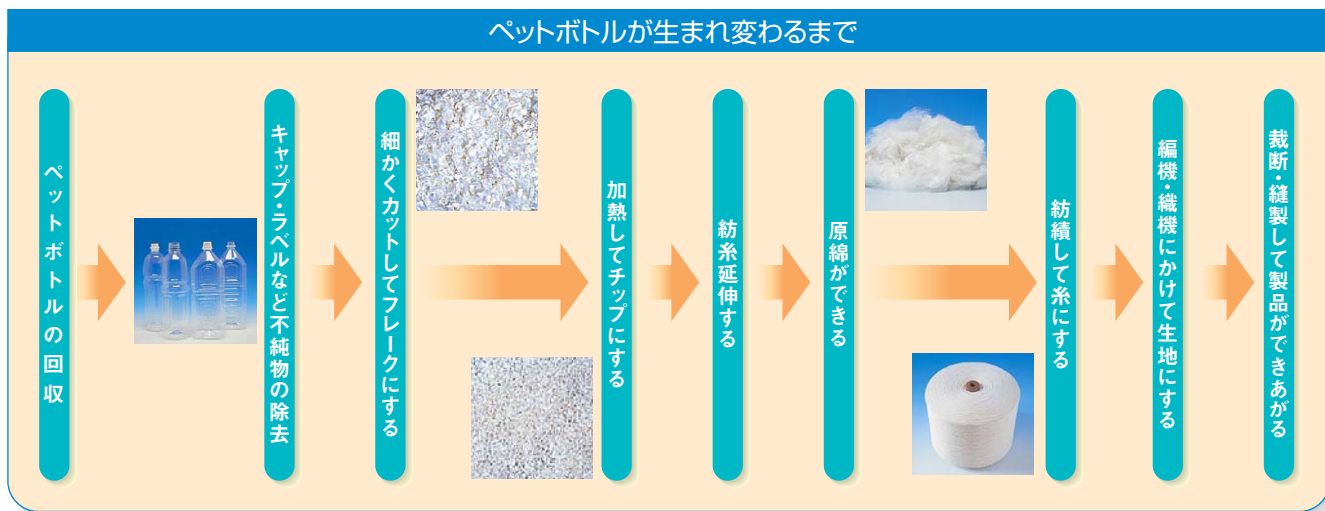


再生ポリエステル繊維

●ユニエコロ

ペットボトルの需要は年々増え続けていますが、石化原料の高騰でペットボトル原料も高騰が続いています。飲み終わったペットボトルは、いまや貴重な資源です。ユニチカでは環境保全の一環としてペットボトルのリサイクル化に取り組み、従来か

らの優れた紡糸技術を生かして、「ユニエコロ」を開発しました。ソフトな風合い、ボリューム感があり、従来のポリエステルと同等の機能性も有しています。限りある資源の再利用と地球環境を考えた繊維です。



植物由来のバイオマス素材

●キャストロン

100%植物由来の原料からなる『キャストロン』。非食物であるヒマ(唐胡麻)の種子を原料とした、環境負荷の少ないナイロン繊維です。

特性面においても従来のナイロン繊維には無い、その分子構造に起因する優れた耐摩耗性、耐屈曲疲労性、耐溶剤性、寸法安定性や低温柔軟性を有しています。軽量素材で、これらの特徴を生かしてスポーツ衣料やカバン用途などのほか、非衣料分野での展開も期待される注目素材です。



キャストロンが採用されているカバン



新天然繊維

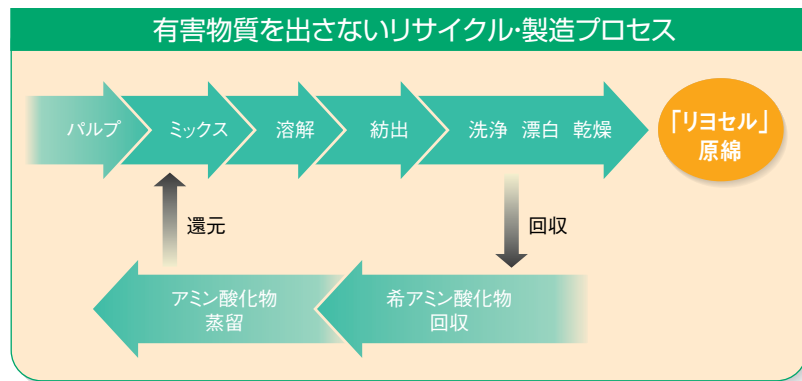
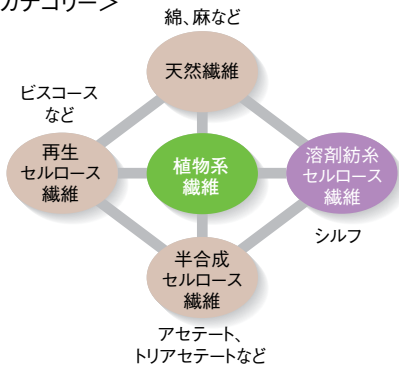
●シルフ

やさしい風合い、心地いいタッチ、豊かな表現力、仕立て映えの良さ…。どれもが衣料素材にとっては欠かすことのできない大切な要素です。それらすべてを満たしたうえで、新鮮かつ快適な着心地をもたらすこと。そんな新たな世界を広げていく素材「シルフ」が誕生しました。リヨセル原綿の開発スタートから10年以上の年月を経て、「シルフ」はよりいっそうの進化を遂げた原綿を最新の高度ファブリケーション技術によって製品

化。高付加価値を持った素材バリエーションも広がり、リヨセル製品の世界がさらに大きくクオリティアップされました。また「シルフ」は環境保全にかかわる優れた面も持っています。これからの時代に求められる新しいスタンダード素材——それが「シルフ」です。



<繊維カテゴリー>



オーガニックコットン使用素材

●ネイチャーコット

「Naturecot」は、Organic Exchange (オーガニック・エクスチェンジ)※1の規格に則った安心できるオーガニックコットン使用素材です。

より多くの方にオーガニックコットン製品を使用していただくためにオーガニックコットン100%商品だけでなく、ファッション性、機能性を考えたオーガニックブレンド素材にもこだわりました。

オーガニックコットンは、3年以上農薬を使用していない土地で有機栽培されたコットン素材です。ユニチカテキスタイル(株)では、オーガニックコットンを取り扱うにあたり、お客様の手に

確実にオーガニックコットン商品を届けるために第三者機関による認証によってオーガニックコットンの証明をすることが必要であると考え、Control union (コントロールユニオン)※2にてOrganic Exchange (オーガニック・エクスチェンジ)の認証を取得し、トレーサビリティが可能な生産体制を整えました。

※1 Organic Exchange:アメリカに本拠を置く世界中でオーガニック商品の普及を目指すNPO(非営利団体)

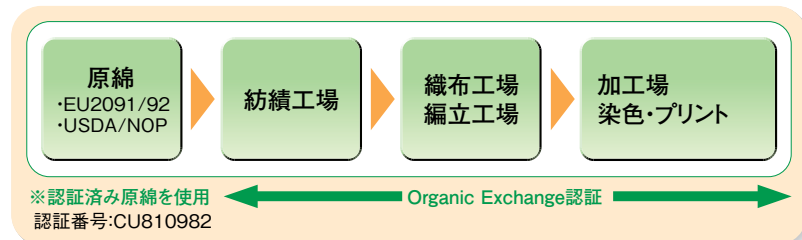
※2 Control union:オランダ・ロッテダムに本社を置くオーガニック認証機関の1つ



■特徴

細番手化が可能で、差別化素材との組み合わせも可能です。	シルフシリーズ、桜蘭譚 等
環境配慮素材との組み合わせが可能です。	テラマック、ユニエコロ 等
差別化紡績技術との組み合わせが可能です。	パルパー、フリーツイスト、精紡交撚 等

■品質保証



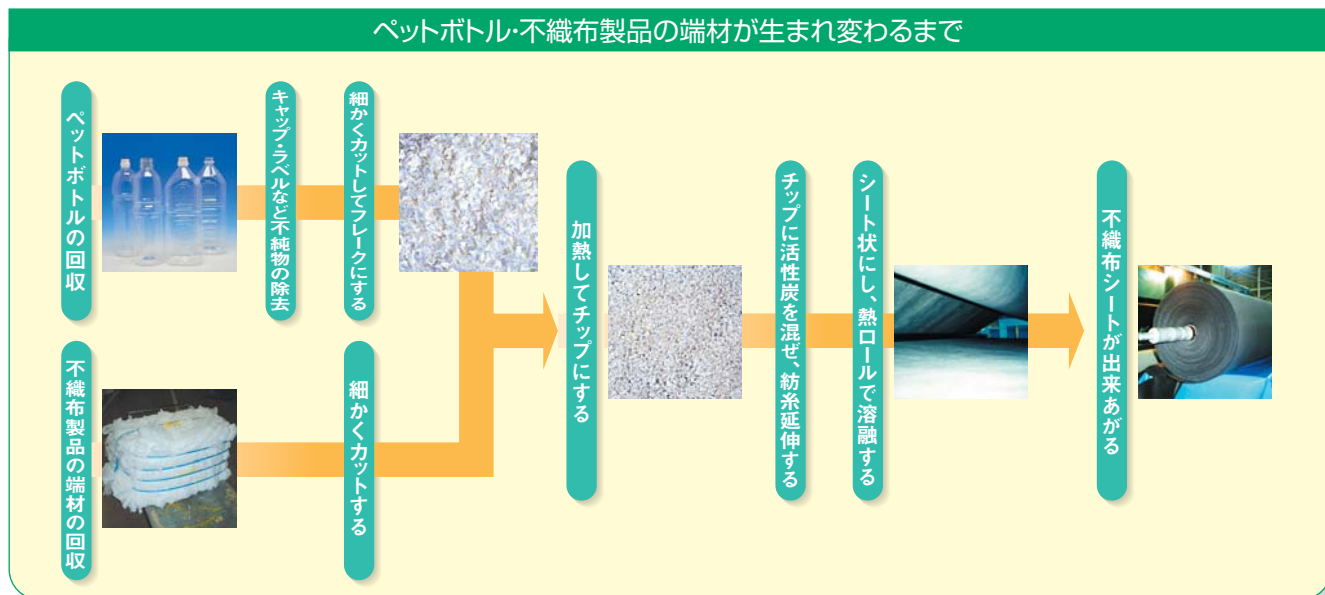
再生ポリエステル不織布シート

●エコミックス

ユニチカでは、環境保全の一環としてリサイクルに取り組んでいます。そこで、従来からの優れたスパンボンド技術を生かし、「ペットボトルまたは不織布製品の端材」を利用したポリエステル長繊維不織布「エコミックス」を開発しました。すでに(財)日本環境協会からエコマークの認定(認定番号第00105029号)も受けています。「エコミックス」は、優れた透水性、耐久性を有しており、土木用途のうち廃棄物処分場の

遮水シートの保護マット、盛り土補強工法・港湾の防砂シート、河川護岸用吸い出し防止シート、さらにプラスチックボードドレーンといった用途での使用許可を得ております。サイズも経済的な幅広のシートで伸度が大きく、変形突起物などにも十分に対応。時代のニーズに即したシートとして注目を集めています。

エコミックス



ガラスビーズ

●ロードマーキング用ユニビーズ

ロードマーキング用ユニビーズは、透明微小球レンズとしての特性である「光の再帰反射効果」を利用し、各種ロードマーキングに使用され、夜間の視認性を上げることにより交通安全に役立っています。

原料には、建築廃材等のガラスカレットを使用し、再資源化した「リサイクル製品」です。

土壌に負荷を与える有害物質の溶出はなく、安全で環境に優しい製品を提供しています。

環境への負荷低減に寄与している事により、(財)日本環境協会からエコマークの認定(認定番号 05 131 001号)を受けています。

また、地球にやさしいグリーン購入の対象製品として、大阪府知事が認定する「大阪府認定リサイクル製品」(認定番号20-126)にも登録されています。



UNIBEADS
ユニビーズ



事業所情報

宇治事業所

- 所在地：京都府宇治市宇治戸ノ内5番地
- 敷地面積：311,781m²
- ISO14001: 認証番号 JCQA-E-0058
認証番号 JCQA-E-0249
- 主要製品：ナイロン樹脂、ナイロン繊維、
エンジニアリングプラスチック、
ナイロン・ポリエステルフィルムなど

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx総量	Nm ³ /時	29.1	5.3
	NOx	ppm	199	55
	ばいじん	g/Nm ³	0.025	0.001未満
水質	COD負荷量	Kg/日	1,131.4	397
	浮遊物質	mg/l	30	6
	油分	mg/l	16	0.54
	窒素	Kg/日	722	193
	リン	Kg/日	98	6

岡崎事業所

- 所在地：愛知県岡崎市日名北町4-1
- 敷地面積：313,865m²
- ISO14001: 認証番号 JCQA-E-0292
- 主要製品：ポリエステル樹脂、
ポリエステル繊維、
スパンボンド(長繊維不織布)、
医療用具、環境事業など

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx総量	Nm ³ /時	34.89	0.03
	NOx	ppm	100	74
	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.002未満
水質	COD負荷量	Kg/日	718.7	70.2
	浮遊物質	mg/l	20	5
	油分	mg/l	10	1未満
	窒素	Kg/日	385	29
	リン	Kg/日	51	6

豊橋事業所

- 所在地：愛知県豊橋市曙町字松並101
- 敷地面積：270,804m²
- ISO14001: 認証番号 UJL A16735
Volume:1(ユーアイ電子(株))
- 主要製品：不織布
(土木・ルーフィング用シート)、
バイオ事業(ハナビラタケ)、
プリント配線基板

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx総量	Nm ³ /時	0.49	0.031
	NOx	ppm	180	75
	ばいじん	g/Nm ³	0.3	0.003
水質	COD	mg/l	11.9	7
	浮遊物質	mg/l	70	4
	油分	mg/l	5	1未満
	窒素	mg/l	120	12
	リン	mg/l	16	0.32

垂井事業所

- 所在地：岐阜県不破郡垂井町2210
- 敷地面積：156,224m²
- ISO14001: 認証番号 JCQA-E-0323
- 主要製品：綿不織布、ガラスクロス

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx	K値	11.5	1.0
	NOx	ppm	180	120
	ばいじん	g/Nm ³	0.3	0.004
水質	COD負荷量	Kg/日	108.4	27.0
	浮遊物質	mg/l	50	4
	油分	mg/l	5	1
	窒素	mg/l	120	1.9
	リン	mg/l	16	0.09

宮川事業所

2009年7月に
操業を終了いたしました。

- 所在地：三重県伊勢市小俣町本町341
- 敷地面積：103,404m²
- 主要製品：羊毛及び羊毛との混合素材を使用した糸、織物

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx	K値	17.5	1.5
	NOx	ppm	180	82
	ばいじん	g/Nm ³	0.3	0.003
水質	COD負荷量	Kg/日	91.2	16.0
	浮遊物質	mg/l	30	2.0
	油分	mg/l	20	3.4
	窒素	mg/l	10	4.5
	リン	mg/l	1.5	0.04

坂越事業所

- 所在地：兵庫県赤穂市高野846
- 敷地面積：191,236m²
- ISO14001: 認証番号 JCQA-E-0093
- 主要製品：ビニロン繊維
(セメント・ゴム補強、畳糸、
製紙用バインダーなどの
産業資材向け)

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx総量	Nm ³ /時	9.1	3.8
	NOx	ppm	170	69
	ばいじん	g/Nm ³	0.12	0.019
水質	COD負荷量	Kg/日	348	80
	浮遊物質	mg/l	3.9	1.96
	油分	mg/l	10	1.26
	窒素	mg/l	15	0.58
	リン	mg/l	2	0.04

常盤事業所

- 所在地：岡山県総社市中原88
- 敷地面積：137,551m²
- ISO14001: 認証番号 JCQA-E-0221
- 主要製品：純綿糸、合成混紡糸と純綿糸、
合成混紡糸の織物

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx	K値	17.5	0.5
	NOx	ppm	130	82
	ばいじん	g/Nm ³	0.3	0.007
水質	BOD	mg/l	80	3
	浮遊物質	mg/l	100	1未満
	油分	mg/l	2.5	1未満
	窒素	mg/l	-	-
	リン	mg/l	-	-

(株)ユニオン

- 所在地：大阪府枚方市大峰南町10-1
- 敷地面積：6,886m²
- ISO14001: 認証番号 JCQA-E-0835
- 主要製品：ガラスビーズの製造

	物質	単位	規制値	実測値
大気	SOx	Nm ³ /時	-	-
	NOx	ppm	180	35.0
	ばいじん	g/Nm ³	0.15	0.024
水質	BOD	mg/l	300	18.0
	浮遊物質	mg/l	300	21
	油分	mg/l	2	0.5未満
	窒素	mg/l	150	1.5
	リン	mg/l	20	0.17

*水質データは下水道への排出値です

注1：規制値は法(大気汚染防止法、水質汚濁防止法)、条例、県指導、協定の中で最も厳しい値を示しました。
 注2：事業所敷地内の関係会社の環境負荷分も含みます。
 注3：SOxは硫黄酸化物、NOxは窒素酸化物、CODは化学的酸素要求量、BODは生物化学的酸素要求量です。
 注4：大気については各事業所にあるそれぞれの設備の内、主要設備の測定値を記載しました(総量は事業所全体の値)。
 注5：水質については各事業所で最も高い値を示した排水口の測定値を記載しました(負荷量は事業所全体の値)。



お問い合わせ先

ユニチカ株式会社

〒541-8566 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

経営管理室IR広報グループ：TEL06-6281-5695

ホームページ：<http://www.unitika.co.jp/>